

令和4年度

福岡市美術館 活動の記録

Fukuoka Art Museum
Annual Report 2022

凡例	3	調査・研究活動	38
		紀要の発行	38
美術館の主要事業	4	収集活動	39
美術館日誌	4	美術資料	39
福岡市美術館リニューアル事業	4	図書・映像資料	41
今月のアート	5		
福岡アートアワード	6		
		美術資料の修復・貸出	42
展示活動	7	修復	42
特別企画展	7	貸出	42
公募展	11		
コレクション展	12	美術館リニューアル事業	44
企画展	16	広報業務	44
展覧会関連記事	19	カフェ・レストラン	45
		ミュージアムショップ	46
教育普及活動	21		
どこでも美術館	21	施設の利用状況	47
スクールツアー	23	展示室	47
つきなみ講座	24	ミュージアムホール等	53
福岡ミュージアムウィーク2022	25	令和4年度月別観覧者数	53
夏休みこども美術館2022	26		
ファミリーDAY	27	名簿	54
バリアフリーギャラリーツアー	28		
第8回いきヨウヨウ講座	29	資料	55
博物館実習	29		
職場体験学習	29		
図書企画	30		
ボランティア活動	31		
出版物	34		
		連携・協力事業	36
		三館連携・協力企画	36
		その他の連携企画	36
		協力事業	37

本冊子は福岡市美術館の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの活動の記録である。

本冊子の執筆者は次のとおり。

後藤恒、嶋田明香、高田瑠美、忠あゆみ、中務美紀、中原千代子、宮田太樹、八並美咲、山木裕子、山田隆行、渡抜由季(以上、学芸課)、道下志保(事業管理課)。

データの寸法(法量)は、例えば平面作品の146.2×112.3は縦146.2、横112.3(イメージサイズ)で、立体作品の74.3×46.0×11.0は高さ74.3、幅46.0、奥行き11.0で、単位はセンチメートルである。また、所蔵品番号の番号記号の意味は下記の通りである。なお、欠番の8と10は、加藤資料(8)および奥村資料(10)であったが、福岡市博物館の開館に伴い、平成3年3月31日に移管した。

		作品番号
1 郷土作家 ^(注1)	A 油彩画等 ^(注2)	
2 日本作家	B 日本画等 ^(注3)	
3 海外作家	C 水彩画等 ^(注4)	
4 黒田資料	D 素描	
5 東光院仏教美術資料	E 版画	
6 松永コレクション	F 写真	
7 太田コレクション	G 彫刻等 ^(注5)	
9 石村コレクション	Ha~Hf 工芸 ^(注6)	
11 森山コレクション	I 書跡	
12 三宅コレクション	J 文書	
13 山崎朝雲資料	K その他	
14 一般古美術資料	L 映像	
15 研究資料		
16 西本コレクション		
17 本多コレクション		
18 クスマコレクション		
19 藤森静雄コレクション		
20 森田コレクション		
21 川村コレクション		
22 栗田コレクション		
23 リーコレクション		
24 小西コレクション		
25 門田コレクション		
26 教育研究資料		

例) 1-A-452 → 郷土作家・油彩画・452番

注

- 九州および山口県、沖縄県の出身・在住作家。
- A(油彩画等)の分類には、大きさの形状から油彩画と同等と思われる作品も含む。すなわちアクリル絵具による絵画、複数の技法の併用による作品、レリーフ、コラージュ、布・紙・金属等の特殊な素材による作品も含む。立体の付属物があっても正面から鑑賞される壁面展示の作品、版画技法を用いても1点制作である作品、素描であってもその大きさや表現が油彩画に匹敵するとと思われる作品もまたAに分類した。
- B(日本画等)の分類には、伝統的な素材・技法・形状による中国や朝鮮の絵画も含む。
- C(水彩等)の分類には、パステルなどの多色を基調とする作品も含む。
- G(彫刻等)の分類には、オブジェ、インスタレーションなどの立体作品も含む。
- H(工芸)は素材別に枝番号を付した。陶磁器はHa、漆工はHb、金工はHc、染織はHd、刀剣はHe、その他はHfとした。

美術館日誌

令和4年

- 3月 23日(火) 「第53回福岡市美術展」開催(4月3日まで)
- 4月 23日(土) ミナ ヘルホネン／皆川明 つづく(6月19日まで)
- 5月 14日(土) 福岡ミュージアムウィーク2022 (5月22日まで)
- 7月 1日(金) tupera tuperaのかおてん.(8月21日まで)
- 7月 20日(水) 観覧者2500万人達成記念セレモニー
- 7月 25日(月) 美術資料収集検討会(オンラインにて実施)
- 9月 3日(土) 国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術(10月16日まで)
- 9月 5日(月) 美術資料収集審査(近現代美術)
- 11月 1日(火) 藤野一友と岡上淑子(令和5年1月9日まで)
- 11月3日(木・祝) ファミリー DAY (11月6日まで)

令和5年

- 1月 31日(火) 美術資料収集審査(古美術)
- 2月 22日(水) 美術資料収集審査(近現代美術・福岡アートアワード)
- 3月 28日(火) 「第54回福岡市美術展」開催(4月2日まで)
- 3月 29日(水) 第1回福岡アートアワード授賞式、受賞作品展(6月11日まで)

福岡市美術館リニューアル事業

1 事業目的

昭和54年11月の開館から約40年が経過する福岡市美術館において、民間活力やノウハウを活用することで、大規模改修及びリニューアル後の維持管理・運営を効果的・効率的に実施するとともに、ソフト・ハードの両面でのさらなる魅力向上を図ることを目的とする(平成31年3月リニューアルオープン)。

2 事業方式

事業方式：PFI(RO)方式

事業類型：サービス購入型、一部独立採算(レストラン等)

3 契約の相手方等

契約の相手方：福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社

事業期間：平成28年2月23日から令和16年3月31日まで

4 事業範囲

設計・建設業務	実施設計、改修工事、工事監理など
開館準備業務	リニューアル広報、収蔵品等情報システム開発など
維持管理業務	建築物及び設備保守管理、清掃、警備など
運営業務	利用者対応、広報・集客、レストラン・カフェの運営など(P44～46参照)

今月のアート

趣旨

市長定例会見時に、福岡市内出身・在住・勤務いずれかに該当し、FaN事業などに貢献したアーティストの作品1点を掲示し紹介するとともに、市役所9階特別応接室に3点展示した。定例会見がない月は前月の作品を継続展示した。

展示作品(会見室)

令和4年	4月	KYNE《Consider Others》
	5月	遠山裕崇《不在》
	6月	瀬戸口朗子《森の中庭》
	7月	銀ソーダ《move on 01》
	8月	坪山小百合《Between You and Me #5》
	9月	
10月		
令和5年	11月	小島拓朗《untitled》
	12月	
	1月	田中千智《地に足をつけて》 ※個展開催に合わせ1～3月継続展示
	2月	
3月		



設置風景写真

福岡アートアワード

趣旨

福岡アートアワードは、福岡市美術館が、Fukuoka Art Nextの一環として実施する事業で、福岡市内で目覚ましい活動をおこない、今後さらなる飛躍が期待できるアーティスト(美術作家)を対象に、作品の買い上げをもって贈賞する。贈賞によりアーティストを支援し、買い上げ作品は福岡市美術館の所蔵品として展示活用される。これにより、福岡市にアーティストが集まり、質の高い作品の展示や市民がアートに親しむ機会が増え、福岡市が彩りにあふれたアートのまちとなることを目指します。

賞について

自薦・他薦にて対象アーティストを募集し、応募者の中から、選考委員が下記の賞の受賞者と買い上げ作品を選考する。

市長賞 1名

優秀賞 2-5名程度

選考過程

第1回選考委員会 12月16日(金)

第2回選考委員会 1月19日(木)

選考委員

水沢勉(神奈川県立近代美術館 館長)

植松由佳(国立国際美術館 学芸課長)

堀川理沙(ナショナル・ギャラリー・シンガポール、
キュレトリアル&コレクションズ ディレクター)

第1回受賞作家・作品

■市長賞

鎌田 友介《Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》
2021年

■優秀賞

チョン・ユギョン《Let's all go to the celebration square of victory!》
2018年

■優秀賞

石原 海《重力の光》
2021年

関連イベント

■授賞式

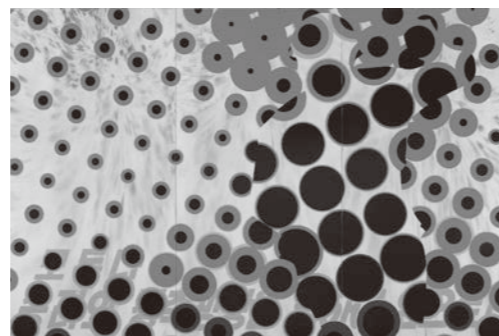
日時 2023年3月29日(水)
会場 近現代美術室B前ロビー

■福岡アートアワード受賞作品展

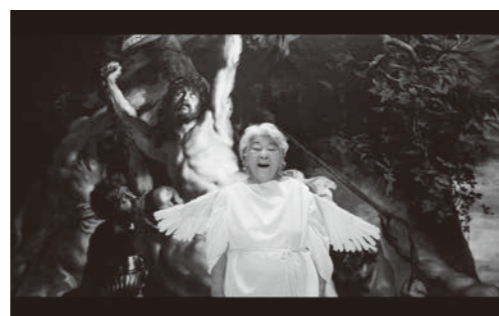
会期 2023年3月29日(水)～6月11日(日)
会場 近現代美術室B



鎌田 友介
《Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》



チョン・ユギョン
《Let's all go to the celebration square of victory!》



石原 海《重力の光》

特別企画展

ミナ ペルホネン／皆川明 つづく



ポスター-B2



会場風景

会 期 令和4年4月23日(土)～6月19日(日)
 会 場 特別展示室
 内 容 ファッションデザイナー、皆川明(1967-)が立ち上げたブランド「ミナ ペルホネン」は、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、独自のものづくりを続けてきた。生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示した。
 出 品 点 数 約1,000点
 主 催 福岡市美術館、西日本新聞社、テレQ
 企 画 協 力 朝日新聞社
 制 作 協 力 積水ハウス
 後 援 福岡県、福岡市教育委員会、公財福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道、九州旅客鉄道
 観 覧 料 一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料
 開 催 日 数 50日間
 観 覧 者 数 43,267人
 印 刷 物 【ティザーカード】4種
 【ポスター】2種(B2、B3)
 【チラシ】1種(A4変形)
 【図録】B5変形、274ページ

展覧会担当：忠あゆみ

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
4月12日(火)～4月14日(木)	特別公開制作	9:30～17:30	皆川明氏による大型絵画の公開制作を行った。完成作《Unreachable Landscape》は会場内で展示した。	2階ロビー
5月14日(土)	ワークショップ「自分でつくる 自分だけの柄」	①10:30～ ②13:30～	講師：田中景子(ミナ ペルホネン) 参加者：27人	アートスタジオ
5月15日(日)	クロストーク 皆川明 × 中村好文	14:00～15:30	参加者：178人	ミュージアムホール
6月12日(日)	クロストーク 皆川明 × 田中景子	14:00～15:30	参加者：165人	ミュージアムホール

tupera tuperaのかおてん.



ポスター-B2



会場風景

会期 令和4年7月1日(金)～8月21日(日)
会場 特別展示室
内容 絵本を中心に活躍する人気のクリエイティブ・ユニット tupera tupera(ツペラ ツペラ)による展覧会。本展では、『かおノート』や『こわめっこしましょ』など、「顔」をテーマに彼らが手掛けた絵本の原画や、映像作品の《かおづくリズム》、2メートルの巨大な顔がずらりとならぶ《かお10》、さまざまな仕掛けを発見して楽しむインスタレーション《かおカオス》、そして来場者が自身の身体を使って大きな顔を完成させる参加型展示《床田倫男(ゆかだゆかお)》などを展示した。子どもたちに人気の絵本を制作していることや、展示自体が触ったり、覗いたり、参加したりとハンズオンな要素が多いこともあり、特に小さな子どもとその保護者の来場が目立った。また、tupera tupera自身の発案で、館内各所にカットティングシートを使って「顔」が表現され、会場に入るまで、出た後でも楽しめる工夫がなされた。絵本ライブやワークショップなども好評であった。

出品点数 11件
主催 福岡市美術館、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、西日本新聞イベントサービス
企画協力 PLAY! MUSEUM
後援 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道、(一社)福岡県私立幼稚園振興協会、福岡県保育協議会
観覧料 一般1,600円、高大生1,100円、小中生700円
 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名、および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者、および未就学児は観覧無料
開催日数 45日間
観覧者数 34,273人
印刷物 ポスター1種(B2)
 チラシ1種(A4表裏)
 かおシール: 8種
 かおルーペ: 8種

展覧会担当: 鬼本佳代子

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
7月2日(土)	tupera tupera サイン会	①受付開始・開場10:30 開始11:00 終了12:00 ②受付開始・開場12:30 開始13:00 終了14:00	展覧会公式ブック『かおPLAY!』購入の希望者先着順にtupera tupera本人がサイン。 参加者: ①25組 ②23組	1階アートスタジオ
7月3日(日)	tupera tupera絵本ライブ	13:00～15:00	tupera tuperaと久留米を拠点に活動する音楽ユニット ザ・スタッカーツによる絵本ライブ。会場装飾は当館ボランティアが協力した。 出演:tupera tupera、ザ・スタッカーツ 参加者: 180人	1階ミュージアムホール
①7月29日(金) ②8月17日(水)	tupera tuperaのワークシートで遊ぼう!	いずれも10:00～15:00	tupera tuperaによるワークシートを使って参加者が思い思いの顔を作成。本ワークショップはtupera tuperaは来場せず、当館ボランティアおよび福岡教育大学の協力により、本展担当学芸員が実施。 参加者: ①281人 ②331人	1階アートスタジオ
	カフェ・レストランとのコラボレーション		カフェアクラムにて・トロピカルなマンゴーシュークリームに目と鼻をあしらった限定メニュー「大濠シュエ太郎」を提供 ・tupera tuperaの人気絵本「かおノート」とのコラボスイーツ「かおノートティラミス」を提供	

「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」



ポスター-B2



会場風景

会期 令和4年9月3日(土)～10月16日(日)
 前期[令和4年9月3日(土)～9月25日(日)]
 後期[令和4年9月27日(火)～10月16日(日)]
会場 福岡市美術館 特別展示室
内容 京都・栴尾の高山寺に所蔵される国宝「鳥獣戯画」(「鳥獣人物戯画」)は、日本美術の中でも最も有名であり、また、人びとから愛される作品である。この絵巻の魅力が「愛らしき」にあることは言うまでもないだろう。本展では、この「鳥獣戯画」が持つ愛らしさについて、モチーフと表現の2つの視点から迫る。モチーフはもちろん動物である。日本美術の歴史を紐解いてみると愛らしい動物をテーマにした作品が古来、連続と作り続けられており、日本美術の独自性を決定づける重要な要素となっていることに気づかされる。それから、「鳥獣戯画」の魅力を支えるもう1つの要素が表現の簡潔さとユーモアである。墨だけの簡潔な表現は懐かしさにも似た親しみを感じさせ、この絵巻の魅力を支える重要な要素となっている。また、この絵巻は「戯画」とも呼ばれるように、擬人化された動物たちの振舞いにユーモアを見出すことも古来行われてきた。本展では、「鳥獣戯画」の魅力を支える動物モチーフと表現の簡潔さとユーモアというテーマに沿って、日本美術を紹介した。

出品点数 71件
主催 福岡市美術館、高山寺、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、テレQ、朝日新聞社
特別協賛 大和ハウス工業
協賛 ファーマフーズ
後援 福岡県、福岡県教育委員会、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道、九州旅客鉄道
観覧料 一般1,800円、高大生1,200円、小中生800円
 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料
開催日数 36日間 ※台風の影響で臨時休館となり、会期は38→36日間に変更
観覧者数 53,306人
印刷物 【先行ポスター】B2 【先行チラシ】A4
 【ポスター】B2、B3 【チラシ】A3両観音折
 【図録】B5・224頁

展覧会担当: 宮田太樹

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
8月21日(日)	プレトークイベント「鳥獣戯画と日本美術の遊戯」	13:30～15:00	講師: 中山喜一郎 参加者: 145人	ミュージアムホール
9月17日(土)	つきなみ講座「愛らしき日本美術の楽しみ方」	13:30～15:00	講師: 宮田太樹 参加者: 119人	ミュージアムホール
10月2日(日)	記念講演会①「京都・高山寺の名宝—その魅力と謎—」	13:30～15:00	講師: 井並林太郎(京都国立博物館 研究員) 参加者: 124人	ミュージアムホール
10月9日(日)	記念講演会②「競い遊ぶものたち—「戯画図巻」のこころ—」	13:30～15:00	講師: 齋藤真麻理(国文学研究資料館 教授) 参加者: 110人	ミュージアムホール

「藤野一友と岡上淑子」



ポスターB2



会場風景

会期 令和4年11月1日(火)～令和5年1月9日(月・祝)
会場 福岡市美術館 特別展示室
内容 藤野一友(1928-1980)は1950年代より二科会を中心に活動した、細密な描写による幻想絵画を特徴とする画家。神話や西洋古典絵画、シュルレアリスムを下敷きに編まれた世界は、絵画のみならず舞台の演出・美術、詩や小説の執筆、装丁、挿画、映画とジャンル横断的に幅広く展開した。1965年に病に倒れ、1980年に早逝するが、没後も作品がSF小説の表紙を飾るなど、現在までインパクトを与え続けている。同じく1928年生まれの岡上淑子は、コラージュ作品で知られる美術家。1950年から1956年までという短い期間に、進駐軍が残した洋雑誌の写真からイメージを切り取り、紡ぎ出された夢見るような世界は、発表当時から注目を集めた。2000年に再び光が当たり、近年では高知県立美術館や東京都庭園美術館でも個展が開かれた。1951年頃に文化学院で出会った藤野と岡上は1957年に結婚。「作風がどことなく似てましたでしょ」と後年岡上が語ったとおり、両者の作品はシュルレアリスムの影響や受容の中で考察できる。また、メインモチーフが女性の身体であることも双方の作品の特徴といえる。その身体は時に断片化し、時に異形なものに変容するが、藤野作品では家長的な戦後日本社会における男性優位のまなざしを、岡上作品では戦後の日本で女性が抱いた夢と苦悩を読み取ることも可能だ。福岡市美術館は1982年に藤野一友展を開催し、代表作を含む作品・資料を多数所蔵する。40年ぶりとなる回顧展を、これまでに実現されることなかった、岡上淑子との2人展として開催。時代順に作品を紹介する2つの個展形式で構成することで、ふたりの表現の特徴、共通点と差異が鮮やかに浮かび上がらせ、その活動を醸成し共鳴した時代もあぶりだした。

出品点数 211件
主催 福岡市美術館、読売新聞社、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス
観覧料 一般1,300円(1,200円)、高大生800円(700円)、中学生以下無料
 ※()内は20名以上の団体、満65歳以上の割引料金。
 ※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名、および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料。
開催日数 54日間
観覧者数 6,603人
印刷物 【図録】B5変形、160頁(※公式図録として河出書房新社より刊行。書籍名は『岡上淑子・藤野一友の世界』)
 【ポスター】B2
 【チラシ】A3

展覧会担当：正路佐知子

関連イベント

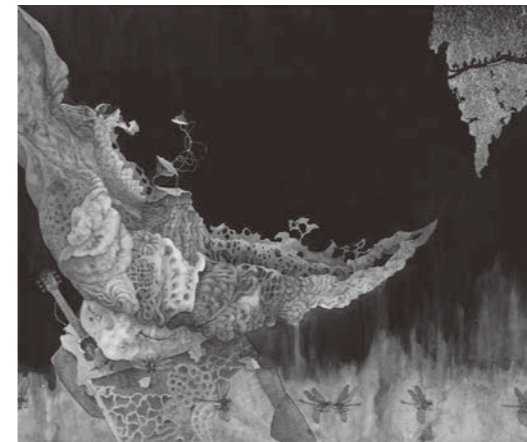
日	イベント名	時間	内容	会場
11月12日(土)	記念講演会「岡上淑子とその時代」	14:00～15:30	講師：巖谷國士 参加者：152人	ミュージアムホール
11月26日(土)	つきなみ講座特別編「藤野一友と岡上淑子」	15:00～16:00	講師：正路佐知子 参加者：46人	レクチャールーム

公募展

第54回(令和4年度)福岡市美術展



ポスターB2



福岡市美術展大賞 「ジョスイレン」 井本 悟

会期 令和5年3月28日(火)～4月2日(日)
会場 特別展示室 ギャラリー(全室)
内容 福岡市美術展は、美術の各分野における市民の創造活動を促進し、その成果の発表と鑑賞の機会を提供することにより、市民の美術活動の振興を図ることを目的とした公募展。全7部門に605人(720点)より応募があり、68人(68点)が入賞、346人(355点)が入選となった。

出品及び展示状況

区分	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	デザイン	計
出品(応募)人数	17	154	13	45	145	180	54	605
出品(応募)点数	19	187	13	51	146	245	59	720
展示点数	入賞入選	12	103	8	30	89	34	423
	招待審査員	3	6	4	3	7	2	31
	計	15	109	12	33	96	36	454

入賞者 (1)福岡市美術展大賞1名(洋画)賞金20万円
 (2)福岡市長賞7名(各部門1名)賞金各10万円
 (3)福岡市議会議長賞2名(書・デザイン)、福岡市教育委員会賞1名(日本画)、福岡県美術協会賞1名(写真)、福岡市美術連盟賞1名(洋画)、福岡文化連盟賞1名、(工芸)、福岡市文化芸術振興財団賞1名(デザイン)、西日本新聞社賞3名(洋画・書・写真)賞金各3万円
 (4)福岡県美術協会奨励賞2名(洋画・彫刻)、福岡市美術連盟奨励賞2名(写真・デザイン)
 (5)奨励賞50名(日本画部門1名・洋画部門12名・工芸部門4名・書部門9名・写真部門17名・デザイン部門3名)
主催 福岡市、福岡市教育委員会、福岡市美術展運営委員会
後援 公益社団法人福岡県美術協会、福岡文化連盟、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団、西日本新聞社、福岡市美術連盟
観覧料 一般400円、高大生300円、中学生以下無料
開催日数 6日間
観覧者数 2,638人
印刷物 【ポスター】B2
 【チラシ】A4
 【開催要項】A3二つ折り
 【図録】A4変形・48頁

関連イベント

日	イベント名	時間	会場
3月10日(金)	入選者発表	—	1階ロビー
4月1日(土)	表彰式	13:00～13:30	ミュージアムホール

コレクション展

近現代美術室A

■新収蔵品展

令和5年3月24日(金)～6月11日(日)

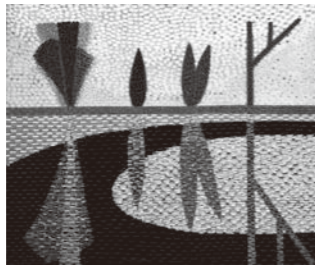
令和4年度、当館は近現代美術の分野において30点を収蔵した。2点が購入、28点が作家や関係者の方々からの寄贈である。また、過去の特別展や企画展の出品作や作家に関連した作品が多数含まれている。本展では、令和4年度に収蔵した近現代美術作品のなかから12点を紹介した。出品作家：上田宇三郎、木下新、田部光子、皆川明、山内光枝
展覧会担当：正路



■夏休み子ども美術館2022「水のリズム」

令和4年6月9日(木)～8月21日(日)

「水の音」をテーマに「ゆらめく」「ながれる」「はざむ」「どんなリズムがきこえる?」の4章構成で近現代美術の所蔵品を展示し、子どもたちが作品鑑賞をしながら水の音を自由に想像できるような展示空間とした。また、福岡で採集したさまざまな水の音を、展示室で流す演出を設けた。音を聞きながら鑑賞することで、想像の音と、実際の音の相互効果により、作品の見え方が変化し、利用者が多様な鑑賞の楽しみを味わえるようにした。鑑賞をきっかけに、利用者が自分の周りにおける「水」について、改めて意識を向けられるような展示内容とした。
展覧会担当：嶋田



上田宇三郎《風景》1954年

■コレクションハイライト①：2つのハイライト

令和4年6月9日(木)～令和5年6月11日(日)

福岡市美術館は、九州・西日本で展開したローカルな美術の流れと欧米中心の美術の流れ、二つの軸に沿って近現代美術作品を収集してきた。その二つの流れを踏まえ、一方の展示壁にはラファエル・コラン、青木繁、坂本繁二郎、田部光子、野見山曉治、菊畑茂久馬らによる作品を、対になる展



示壁にはダリ、ミロ、シャガールといった20世紀美術の代表的な作家による作品を展示し、それぞれを見比べることができる構成にした。
展覧会担当：忠

■一本の線のためには…

令和4年8月24日(水)～10月30日(日)

絵画の重要な構成要素である線は、画家の身体運動の軌跡であり、その視点や思考を見る者に伝える。「文字とイメージの境界で」「線の表情にみる画家の視点」「刻み付けられた線」「一本の線のためには…」の4章立てで、ジャン・フォートリエ、井上三綱、佐藤多持、ベン・シャーンらの作品を展示。線の表情に着目して作品を読み解くことを促した。
展覧会担当：忠



■福岡をみる

令和4年11月1日(火)～12月27日(火)

近現代の作家が描いた福岡県という土地をテーマにコレクション18点を紹介した。展示前の事前調査で地図や空中写真等から、展示対象の作品のうち2点の描かれた場所が判明した。そこで、時と共に変化しつづける福岡の姿を比較できるように作品と資料を合わせて展示し、私たちが普段生活している福岡の知られざる一面に迫った。
展覧会担当：渡抜



松永冠山《糸島風景》制作年不詳

■九州の女性画家たち

令和5年1月5日(木)～3月21日(火・祝)

昨年度の「コレクションハイライト」において、「コレクションと展示のジェンダーバランスを問い直す」というテーマの展示を一年間にわたり行い、当館の所蔵品においても、女性アーティストによる作品は男性アーティストの作品数と比べて非常に少なく、展示機会も十分でないなど明らかなアンバランス



があったことを指摘した。所蔵作品数のバランスはすぐに改善できないが、展示機会を増やしていくことは可能であり、その一歩として九州ゆかりの女性画家たちを特集展示する本展を開催した。近現代美術コレクションから郷土に分類された女性の画家を生年順に11人取り上げた。出品作家は、吉田ふじを、井上正子、高宮一栄、木下邦子、青柳澄佳、島内きみ、赤星信子、竹岡羊子、鬼木美代子、田部光子、山田依子。
展覧会担当：正路

近現代美術室B

■絵になる景色 吉田博を中心に

令和4年3月24日(木)～5月29日(日)

明治時代半ば、イギリスの水彩画をはじめとする西欧の絵画に触発された日本の画家たちは、ピクチャレスク概念をもとに、それまで信仰の対象であった神社仏閣や身近な自然を「絵になる景色」として再発見した。数多くの風景画を手掛けた吉田博の作品を中心に、近代以降の風景に注がれた視線の歴史を所蔵品から辿った。
展覧会担当：忠



吉田博《深流》1928年

■森山安英の絵画—アルミナ頃からヒロシマシリーズまで

令和4年6月9日(木)～8月21日(日)

森山安英(1936年福岡県八幡市[現・北九州市八幡東区]生まれ)は、1968年結成の前衛美術グループ(集団蜘蛛)のメンバーとして、パフォーマンスなどによる「過激な自己破壊」とも呼べる反芸術運動を展開したことで知られる。過激な活動が一つの区切りを迎えた1973年、森山は「もう一度、絵描きに戻り、絵を描く」と述べ、1987年頃絵画シリーズ《アルミナ頃》に着手。以降、森山は「いったい僕にとって絵とは何なのか」と問い、「何をどう描くかではなく、そのこと自体がテーマになるというメタ絵画みたいなもの」を模索しながら絵画制作を続けてきた。令和3年度に当館は森山の最近作までを辿るコレクションを形成することができた。本展では当館所蔵の森山の絵画作品をすべて(初期の絵画から、石内都の写真集『ひろしま』(集英社、2008年)、『fromひろしま』(求龍堂、2014年)の写真を油絵で模写した絵画『ヒロシマシリーズ「ザ・模写」』まで)に寄託品



を加え一堂に展示し、森山の絵画を再検証した。
展覧会担当：正路

■変貌する絵画—アンフォルメル、具体、九州派

令和4年8月23日(火)～10月30日(日)

第2次大戦後、絵画は大きく変貌。激しい筆跡、形のない形、派手な色彩の絵画が、ヨーロッパに生まれ、当時の日本の若い画家たちにも大きな影響を与えた。アンフォルメルとその影響下に生まれた様々な絵画を展示した。
展覧会担当：山木



■奈良原一高「無国籍地」／「人間の土地」

令和4年11月1日(火)～12月27日(火)

福岡県大牟田市出身の奈良原一高(1931-2020)は1956年に個展「人間の土地」を開催して以降、ドキュメンタリーでありながら自身の内面も反映した写真作品を発表し、戦後を代表する写真家となった。本展では令和3年度に作家の遺族より寄贈を受けた211点の中から実質的なデビュー作「人間の土地」(1954-57)と、そのプロローグにあたる「無国籍地」(1954)を展示した。
展覧会担当：忠



奈良原一高《緑なき島 重籠島：地下道》(「人間の土地」より)1954-57年(2016年)

近現代美術室C

■コレクションハイライト②：分かり合い、分かち合う美術

令和4年6月9日(木)～令和5年6月11日(日)

名品・傑作を鑑賞する、非日常的な空間で美を体感する、美術の歴史を辿るといった美術館の従来の役割を相対化することをねらい、冒頭パネルでは「あなたにとって、展示室はどのような場所でしょうか」と投げかけた。その上で、



「展示室＝鑑賞者が作品と対話する場所」という観点からテーマを設けた展示を行った。

1つ目のコーナーでは「イマジネーションの力で」と題し、小牧源太郎、河原温、桂ゆき、草間彌生らによる日本のシュルレアリスムの系譜を示す作品群を展示し、鑑賞者にメッセージを届けるためのユモアを交えた造形表現を紹介した。

2つ目のコーナーでは「絵画を通してこの世界を捉える」と題し、山崎つ子、アンディ・ウォーホルらによる現代社会への批評的な視点を示す絵画作品を紹介した。

3つ目のコーナーでは「感覚をひらく」と題し、マーク・ロスコ、榎倉康二、大浦こころ、梅田哲也らの作品を展示し、作品を鑑賞する行為が時に鑑賞者の感覚に働きかけることを示した。

4つ目のコーナーでは「問いかける、対話する」と題し、和田千秋、木下晋、山本高之らの作品を紹介した。これらの作品にとって、他者との対話、他者への問いかけは重要な構成要素であり、その問いは鑑賞者にも向けられている。作品を鑑賞し、問いかけを受け止めることも対話の一つの形だと示した。

展覧会担当：忠

東光院仏教美術室

■東光院のみほとけ

通期

薬王密寺東光院(福岡市博多区吉塚)から寄贈された、重要文化財を含む仏像を展示。本尊・薬師如来立像、二組の十二神将立像など、重要文化財25軀をはじめとする木彫仏を、4ヶ月に一度展示替えをしながら公開した。

展覧会担当：宮田、後藤



古美術企画展示室

■流れゆく美 日本美術と水

令和4年3月30日(水)～5月29日(日)

水にまつわる様々な美術作品14点を展示。「水のある風景」「水をどうあらわす」の2章構成で、水にゆかりのある絵画、文学、染織、漆工品などを紹介した。

展覧会担当：宮田



■新収蔵品展(古美術)

令和4年3月30日(水)～5月29日(日)

令和3年度にご寄贈いただいた作品および「ふくおか応援寄付」の寄付金等で購入した作品24点を展示した。

展覧会担当：後藤



■田中丸コレクション

九州やきもの風土記 陶器編

令和4年5月31日(火)～8月28日(日)

田中丸コレクションの中から、桃山・江戸時代にかけて焼かれた九州の陶器を当時の地域ごとに取り上げ、計60件によりその歴史や特徴を紹介した。

展覧会担当：久保山炎氏(一般財団法人田中丸コレクション学芸員)、後藤



志賀御本手松文茶碗 江戸時代18世紀 田中丸コレクション

■屏風絵の世界

令和4年10月26日(水)～12月18日(日)

屏風は、間仕切りや風除けなど、室内装飾として欠かせない調度品であった。屏風絵ならではの大幅面に描かれた迫力ある表現や、折ることで生まれる立体感に



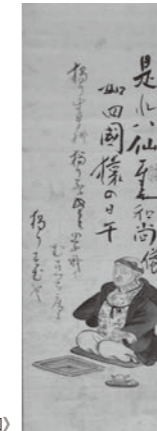
注目し、6件の作品を展示した。

展覧会担当：宮田

■仙厓展

令和4年12月20日(火)～令和5年2月19日(日) 親しみやすい書画を通して人びとに禅の教えを分かりやすく伝えた仙厓義梵の作品40件を展示。「仙厓さんの2つの顔」「仙厓さんの生涯と画風の変遷」「旅する仙厓さん」「ほっこり神仏」「ゆるかわアニマル」「博多の仙厓さん」という構成で仙厓の生涯と画風を紹介するとともにジャンルごとに作品をご覧いただくことで彼の多彩な活動に触れる機会とした。

展覧会担当：宮田



齋藤秋圃筆、仙厓義梵賛(仙厓和尚図)

■東南アジア美術を旅する タイ、カンボジア、ミャンマー

令和5年2月21日(火)～4月9日(日)

福岡市美術館には複数の一括寄贈コレクションによって優れた東南アジア古美術コレクションが収蔵されている。本展ではインドシナ半島の歴史を彩ったタイ、カンボジア、ミャンマーの古美術に注目し、陶磁と仏教美術を中心に81件を展示した。

展覧会担当：後藤



松永記念館室

■春の名品展

令和4年4月12日(火)～6月19日(日)

松永記念館室に常時陳列されている野々村仁清《色絵吉野山図茶壺》(重要文化財)にあわせて、春から初夏にふさわしい名品を選んで18件を展観した。

展覧会担当：後藤



■松永耳庵と益田鈍翁

令和4年6月21日(火)～9月4日(日)

益田鈍翁は松永耳庵をはじめとする多くの実業家を茶の湯の世界へ引き入れた、近代数寄者界の重鎮である。本展では、鈍翁の旧藏品や縁の作品16件を展示するとともに、作品にまつわるエピソードを紹介した。

展覧会担当：宮田



《粉吹茶碗 銘「十石」》

■秋の名品展

令和4年9月6日(火)～11月13日(日)

松永耳庵が秋の茶事で用いた茶道具に加えて、《病草紙》をはじめとする松永コレクションの名品17件を精選して紹介した。

展覧会担当：宮田



《病草紙・肥満の女》(重文)

■老櫛荘の松永耳庵

令和4年11月15日(火)～令和5年1月22日(日)

戦後、小田原に構えた邸宅・老櫛荘に移り住んだ松永耳庵は、電力事業にかかる激務の最中であっても茶の湯中心の生活を貫いた。松永コレクションの茶道具19件により、当時の松永の茶の湯の日々を垣間見た。

展覧会担当：後藤



■松永耳庵と同時代の美術家

令和5年1月24日(火)～4月2日(日)

松永耳庵は伝統的な名品だけでなく、同時代の美術家の手による作品も蒐集した。松永耳庵と交友のあった美術家として、前田青邨、安田靉彦、仰木魯堂・政齋兄弟に注目し、彼らが手がけた作品や縁のある作品14点を展示。両者の交友を示すエピソードも紹介した。

展覧会担当：宮田



仰木政齋《鹿文時絵硯箱》

企画展

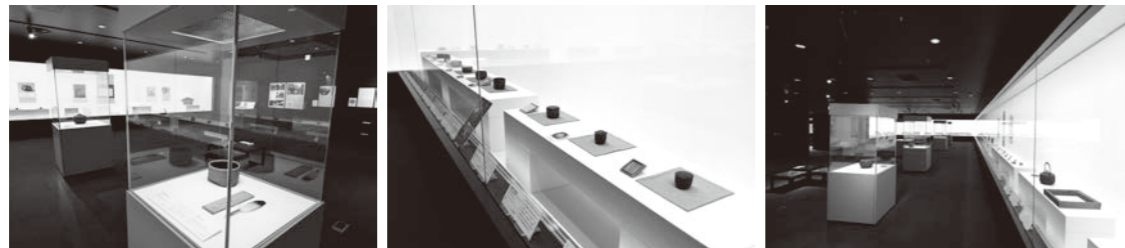
明恵礼讃 “日本最古之茶園”高山寺と近代数寄者たち



ポスター-B2



会場風景



会期 令和4年8月31日(水)～10月23日(日)
会場 古美術企画展示室
内容 京都・栴尾山高山寺の境内にある茶室「遺香庵」は、高山寺を中興した明恵上人(1173～1232)の七百年遠忌にあたる昭和6年(1931)年11月、近代数寄者を中心とする103名の有志によって寄進された茶室である。明恵の生き様や功績は、没後も思慕する人々によって様々に語り継がれてきたが、栄西が中国から持ち帰った茶の種を明恵が譲り受け、植え育てたという伝承もその一つ。その種を植えたのが高山寺とされ、境内の茶園が“日本最古之茶園”と呼ばれる所以である。ここで産出される「栴尾茶」は最上級品として「本茶」と呼ばれ、宇治茶の起源ともされる。近代数寄者たちの寄進は、こうした明恵上人の「茶恩」に報いるものであった。彼らは遺香庵とともに、茶室の常用品として自作または好み物の茶道具も多数寄進した。それらの多くは、栴尾の自然、高山寺伝来の宝物、そして明恵上人の伝記に因む銘や作風を備えている。本展ではそれらに着目し、茶碗、茶杓、茶入、香合など、遺香庵の什物の中から、開庵当初に寄進された茶道具49件を関連資料や参考出品作品とともに展覧した。遺香庵の什物が公開されるのは初めてのことであった。

出品点数 56件
主催 福岡市美術館、高山寺、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TVQ九州放送、朝日新聞社
観覧料 コレクション展示観覧料
開催日数 47日間
観覧者数 25,338名
印刷物 【ポスター】B2
 【チラシ】A4
 【図録】B5・96頁

展覧会担当：後藤恒

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
10月1日(土)	つきなみ講座 「遺香庵の什物ー近代数寄者たちが仰ぎ見た高山寺」		講師：後藤恒 参加者：59人	ミュージアムホール

「田中千智展 地平線と道」



ポスター-B2



会場風景



会期 令和5年1月5日(木)～3月21日(火・祝)
会場 近現代美術室B、大壁面
内容 福岡市在住の画家・田中千智(1980年兵庫県生まれ)は、2005年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業後、2006年より福岡を拠点に作家活動を開始した。アクリル絵具を使ったフラットな漆黒の背景に、艶やかな油彩で前景を描くという独自の手法を開拓した田中の作品には、笑みとも怒りともとれる人物の表情、漆黒の中にきらめく風景など、相反する要素が組み合わせられ、観る者に強い印象を与え、その想像力をかきたてる。多数の個展・グループ展のほか、書籍の装丁画、小学館新社ビルの大作壁画など幅広い活動をおこない、いまや福岡を拠点とする作家の代表格のひとりとなった。本展では、2020年にKYNE《Untitled》が描かれたことで、大きな注目を集めた13mの白い壁を用いた新作壁画を、田中千智が制作し、あわせて田中千智の2008年から最新の作品まで39点を展示する個展を行った。

壁画は、2023年1月末に第1段階が完成、その後2024年1月、2025年1月に制作を行い、第2段階、第3段階と画面が変化していき、最終的には2025年12月末まで展示予定。

点数 39点
主催 福岡市美術館
助成 芸術文化振興基金
観覧料 コレクション展示観覧料
開催日数 65日間
観覧者数 24,993人
印刷物 【ポスター】B2
 【チラシ】A4
 【図録】A4変形・56頁

展覧会担当：山木裕子

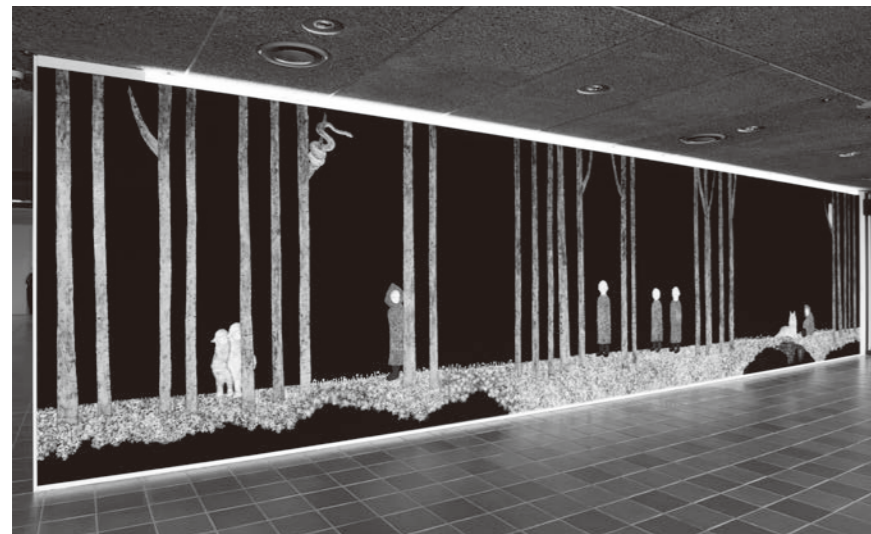
関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
①1月14日(土) ②3月4日(土)	作家によるギャラリートーク	①14:00～14:40 ②14:00～14:40	講師：田中千智 参加者：①92人 ②130人	近現代美術室B
2月11日(土・祝)	担当学芸員によるギャラリートーク	14:00～14:40	講師：山木裕子 参加者：43人	近現代美術室B
2月18日(土)	つきなみ講座 特別編 「田中千智展 地平線と道」のみどころ	14:00～15:30	講師：田中千智(画家)、山木裕子 参加者：56人	レクチャールーム

田中千智《生きている壁画》 令和5年



会期 令和5年1月5日(木)～令和7年12月末
内容 福岡市在住の画家田中千智が、個展と壁画制作を組み合わせた企画展「田中千智展 地平線と道」展で制作したもの。展覧会初日の2023年1月5日から制作が開始し、1月末に第1段階が完成した。2024年1月、2025年1月に加筆を行い、第2段階、第3段階と画面が変化していく予定である。最終的には2025年12月末まで展示を行う。



展覧会関連記事

令和4年4月1日～令和5年3月31日の展覧会・美術館事業に関連する主要な新聞・雑誌・WEB媒体記事をまとめた。
 ※カッコ内は執筆者名。表記・肩書は元記事のままとした。

特別企画展

ミナ ヘルホネン／皆川明 つづく		
西日本新聞(朝刊)	R4.4.15	「もっと九州／23日から福岡市美術館 ミナ ヘルホネン展」(塩田芳久)
西日本新聞(朝刊)	R4.4.24	「創作つづく『洋服の森』皆川明展、福岡市美術館で開幕」(古川剛光)
西日本新聞(朝刊)	R4.5.3	「つづく、つなげる 皆川明の仕事 上」(川口史帆)
西日本新聞(朝刊)	R4.5.4	「つづく、つなげる 皆川明の仕事 下」(川口史帆)
朝日新聞(朝刊)	R4.5.15	「皆川明さん『思考』の全貌 福岡市美術館で特別展」(今井邦彦)

tupera tupera のかおてん。		
西日本新聞(朝刊)	R4.6.3	「創造の面白顔数々並ぶ 絵本で人気「tupera tupera」」(塩田芳久)
西日本新聞(朝刊)	R4.7.2	「ツペラツペラの「顔」展開幕」
毎日新聞(朝刊)	R4.7.2	「顔テーマに展覧会 福岡市美術館で開幕」
西日本新聞(朝刊)	R4.7.20	「もっと九州／tupera tupera のかおてん。」(塩田芳久、納富猛)
西日本新聞(朝刊)	R4.8.10	「こども記者／tupera tuperaのかおてん。」

国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術		
西日本新聞(朝刊)	R4.7.29	「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展のプレトークイベント
西日本新聞(朝刊)	R4.8.19	「本社のイベント／鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」(塩田芳久)
西日本新聞(朝刊)	R4.8.27	「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 いとしさの源流 上」(諏訪部真)
小原流挿花 一般財団法人小原流、2022年9月号	R4.9.1	「知って楽しいアート」(宮田太樹)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.3	「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 いとしさの源流 中」(諏訪部真)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.3	「鳥獣戯画」展きょう開幕」(諏訪部真)
朝日新聞(朝刊)	R4.9.3	「鳥獣戯画」展きょう開幕(中村俊介)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.10	「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 いとしさの源流 下」(諏訪部真)
朝日新聞(朝刊)	R4.9.13	「『鳥獣戯画』継がれる絵心」(中村俊介)
毎日新聞(朝刊)	R4.9.17	「心ほぐす人と動物の姿 「国宝鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展」(上村里花)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.23	「鳥獣戯画展の動物たち 福岡市美術館 上」(宮田太樹)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.30	「鳥獣戯画展の動物たち 福岡市美術館 中」(宮田太樹)
西日本新聞(朝刊)	R4.10.5	「こどもタイムズ／国宝 鳥獣戯画展／かわいいは時代を超えて」
西日本新聞(朝刊)	R4.10.6	「もっと九州／動物たちの姿に熱視線」(諏訪部真、古賀亜矢子)
西日本新聞(朝刊)	R4.10.7	「鳥獣戯画展の動物たち 福岡市美術館 下」(宮田太樹)

藤野一友と岡上淑子		
日経新聞(朝刊)	R3.11.17	「Next ストーリー その服、サステナ(上)／来着ない服は作らない／ミナヘルホネンが問う成長」
西日本新聞(朝刊)	R4.10.21	「色あせぬ独特の世界観 特別展「藤野一友と岡上淑子」(鶴智雄)
アートコレクターズ No.163、生活の友社、2022年10月号、pp.64-65	R4.10.25	「藤野一友と岡上淑子 身体への眼差し」(正路佐知子)
西日本新聞(夕刊)	R4.10.26	「本社の事業／藤野一友と岡上淑子 精密な幻想絵画ずらり」
新美術新聞 No.1327	R4.11.1	「藤野一友と岡上淑子 それぞれに「幻想」を求め、表した二人の仕事を追う」(正路佐知子)
西日本新聞(朝刊)	R4.11.2	「2人独自の世界観楽しもう 「藤野一友と岡上淑子」展」(鶴智雄)
読売新聞(朝刊)	R4.11.2	「戦後復興期活躍2人展 「藤野一友と岡上淑子」福岡で始まる」
読売新聞(朝刊)	R4.11.28	「藤野一友と岡上淑子 作品展」
朝日新聞(朝刊)	R4.12.3	「みる 岡上淑子・藤野一友の世界」(大西若人)
毎日新聞(夕刊)	R4.12.5	「藤野一友と岡上淑子」
読売新聞(朝刊)	R4.12.8	「特別展 藤野一友と岡上淑子 上 三島も惚れた細密描写」(正路佐知子)
読売新聞(朝刊)	R4.12.9	「特別展 藤野一友と岡上淑子 中 表情で伝える女性の苦悩」(正路佐知子)
読売新聞(朝刊)	R4.12.13	子「特別展 藤野一友と岡上淑子 下 ホラーとユーモア戯れる」(正路佐知子)
毎日新聞(夕刊)	R4.12.14	「『この1年「美術」過去を照らし今を知る』2022年の展覧会3選」(佐藤康宏)
artscape	R4.12.15	飯沢耕太郎「レビュー 藤野一友と岡上淑子」(https://artscape.jp/report/review/10181143_1735.html)
高知新聞	R4.12.15	「夢描くコラージュ・油彩画 岡上淑子(高知市)・藤野一友展」(松田さやか)
高知新聞	R4.12.15	「時代の無意識 乗り移る 美術評論家・巖谷さん 岡上作品解説」(松田さやか【構成】)
西日本新聞(朝刊)	R4.12.22	「回顧 美術 「郷土作家」に光 場づくりも進む」(川口史帆)
毎日新聞(西部朝刊)	R4.12.24	「土曜カルチャー シュールと奇想の2人展 「藤野一友と岡上淑子」福岡市美術館」(渡辺亮一)
読売新聞	R4.12.25	「読書委員が選ぶ『2022年の3冊』(上)」(苅部直)

SFマガジン 2023年2月号、株式会社早川書房、p.137	R5.2.1	「マガジン・レーター BOOK」
産経新聞	R5.2.5	黒澤綾子「産経書房 トレンドを読む 再評価進む女性芸術家たち」
福井新聞(ほか、共同通信)	R5.2.5	「新刊紹介」

企画展

明恵礼讃 “日本最古之茶園”高山寺と近代数寄者たち		
西日本新聞(朝刊)	R4.10.14	「数寄者がたたえた明恵 ゆかりの茶道具初公開」(諏訪部真)

田中千智展 地平線と道		
毎日新聞(朝刊)	R5.2.2	「福岡市の画家 田中千智さん 壁画と絵画 作品展 市美術館」(本多由梨枝)

田中千智展《生きている壁画》2023		
西日本新聞(朝刊)	R5.3.1	「1年毎に加筆する「生きた壁画」に挑む 田中千智さん」(丸田みずほ)

コレクション展

コレクションハイライト		
日本経済新聞(朝刊)	R4.5.23	「美術界 遠いジェンダーフリー 女性作品評価 なお道半ば」(木原まゆみ)
毎日新聞(朝刊)	R4.7.12	「ミロの絵画 撮影企画 福岡市美術館ですから」(山崎あずさ)
西日本新聞(朝刊)	R4.7.17	「福岡市美術館で「ミロデー」」(塩入雄一郎)
西日本新聞(朝刊)	R4.8.15	「森山安英の絵画展」(川口史帆)

新収蔵品展		
西日本新聞(朝刊)	R4.4.7	「戦争と美術 いまこそ生々しい 菊畑茂久馬の講論」(榎木野衣)

福岡をみる		
西日本新聞(朝刊)	R4.12.8	「福岡の風景どこで描いた?」(塩入雄一郎)

仙厓展		
美術の窓、生活の友社、2023年1月号	R4.12.20	「和魂漢才ー書画のスズメ 仙厓展」(宮田太樹)

九州の女性画家		
西日本新聞(朝刊)	R5.3.6	「九州ゆかりの女性画家に光 福岡市美術館でコレクション展」(丸田みずほ)

教育普及事業

読売新聞(朝刊)	R4.5.16	「美術館や博物館が催し 福岡市、22日まで合同で」
----------	---------	---------------------------

その他美術館事業

西日本新聞(朝刊)	R4.5.19	「現代美術を未来に残すには?〜ナム=ジュン・パイクのビデオインスタレーションを巡って」
西日本新聞(朝刊)	R4.5.23	「ブラウン管アート修復を語る キャナル、企画参加の溝口さん」(川口史帆)
西日本新聞(朝刊)	R4.7.14	「夏休みマスターロード博多人形絵付け体験」
西日本新聞(朝刊)	R4.7.21	「福岡市美術館開館43年目 観覧者2500万人突破」(生野秀樹)
西日本新聞(朝刊)	R4.9.24	「福岡市21か所アート多彩に 初開催「FaN Week」来月10日まで」(塩入雄一郎)
読売新聞(朝刊)	R4.9.25	「福岡市中心部アートで彩り 来月10日まで」
毎日新聞(朝刊)	R4.9.25	「福岡の街中アートで飾る 「FaN Week」開幕」(野間口陽)
西日本新聞(朝刊)	R4.12.25	「巨大イラスト公開27日まで 福岡市美術館のKYNEさん作品」(塩入雄一郎)

公募展

西日本新聞(朝刊)	R5.3.11	「福岡市美術展入賞者紹介 上」
西日本新聞(朝刊)	R5.3.12	「福岡市美術展入賞者紹介 下」

どこでも美術館

当館のアウトリーチ活動として平成28年度より開始した教育普及事業。館外で作品鑑賞や美術体験ができる、当館オリジナルの持ち出し式の教材(ボックス)を使用したプログラムを実施。本教材は、学校等への貸出も行っている。

1 どこでも美術館ティーチャーズ・プラス

学校での美術鑑賞授業などに活用してもらうため、ボックスの貸出を行っている。

対象：主に市内の小・中・高校

貸出ボックス：

絵画①マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》複製

②長谷川派《韃靼人狩猟図屏風》複製

③尾形乾山《花籠図》複製

やきもの

染め・織りもの

素材と技法①油彩画②日本画③彫刻素材④螺鈿⑤版画



素材と技法ボックス 日本画

貸出校 市内小学校2件、中学校2件、高校4件、大学2件 計10件 1,055人

	貸出校	学年	貸出ボックス	利用日	利用人数(人)
令和4年	福岡教育大学附属福岡小学校	4年	絵画①	5月12日	73
	福岡県立香住丘高校	1～3年	絵画②、絵画③、素材と技法②、素材と技法④	5月25日	251
	福岡教育大学	1年	素材と技法⑤	5月26日	10
	星槎国際高校	1、3年	絵画②、絵画③、素材と技法②	6月7日	120
	福岡市立香椎第3中学校	3年	素材と技法②	6月19日	270
	つくば開成福岡高校	2、3年	絵画①	6月27日	4
	福岡教育大学	1年	素材と技法④	7月9日	10
	星槎国際高校	1～3年	絵画②、素材と技法②	12月8日	10
	令和5年	福岡市立東光中学校	2年	やきもの	1月20日
福岡市立南当仁小学校		5、6年	絵画②	1月30日	247

2 どこでも美術館アウトリーチ

当館の学芸員が館外へ出向き、ボックスを活用した美術鑑賞・体験プログラムを行っている。

対象：市内の院内学級、特別支援学校、離島および公共交通機関で来にくい地域の小中学校、公民館等の高齢者向け活動など。

プログラム内容：

絵画・彫刻①マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》

②長谷川派《韃靼人狩猟図屏風》

③藤浩志《ヤセ犬》

やきもの

染め・織りもの

素材と技法①油彩画②日本画③彫刻素材④螺鈿⑤版画

ワークショップ



公民館での活動の様子(やきもの)

実施校・施設 市内中学校3件、公民館等18件 計21件 507人

	実施日	実施校・施設	学年	参加人数(人)	利用ボックス	
令和4年	6月3日	田隈公民館		20	やきもの	
	6月15日	弥永公民館		20	素材と技法④	
	6月22日	片江公民館		30	素材と技法④	
	6月23日	花畑公民館		20	絵画①	
	6月25日	柏原公民館		17	染め・織りもの	
	6月29日	下山門公民館		19	染め・織りもの	
	7月1日	堤丘公民館		20	やきもの	
	7月4日	田島公民館		8	やきもの	
	7月11日、14日、15日	福岡市立特別支援学校「博多高等学園」	1～3年	116	素材と技法①	
	8月2日	舞松原公民館		17	素材と技法①	
	8月4日	壱岐南公民館		11	素材と技法④	
	9月2日	福津市役所 郷育推進課		23	絵画①	
	9月9日	和白図書館		4	素材と技法①	
	9月12日	百道浜ふれあいサロン		19	素材と技法④	
	9月15日	四箇田公民館		23	素材と技法④	
	9月21日	箱崎公民館		10	やきもの	
	9月22日	九州大学病院院内学級	小学部・中学部	20	絵画①	
	令和5年	1月13日、18日	福岡市立東福岡特別支援学校	1年	44	素材と技法④
		1月19日	別府公民館		31	やきもの
1月27日		内浜公民館		19	絵画②	
3月7日		姪北公民館		16	素材と技法①	

企画担当：中原千代子

スクールツアー

主に市内の小中学校を対象に、児童・生徒が美術に興味を持って美術作品を楽しく鑑賞し、美術館を身近な施設として体験してもらうためのプログラム。当館のギャラリーガイドボランティアが、児童・生徒に向けて、一緒に会話をしながら当館のコレクションを紹介するギャラリーツアーを実施している。

市内小・中学校に対するスクールツアー

実施数 団体数9件 児童・生徒449人 引率35人 計484人

	来館日程	来館校	学年	児童・生徒(人)	引率(人)	合計(人)
令和4年	8月18日(木)	平尾中学校 美術部	1～2	20	2	22
	10月13日(木)	福岡大学附属大濠中学校	2	171	7	178
	11月24日(木)	南当仁小学校	2	56	3	59
	11月25日(金)	南当仁小学校	2	57	4	61
令和5年	2月8日(水)	春吉小学校	2	21	3	24
	2月11日(土・祝)	福岡きぼう中学校	1～3	11	8	19
	2月28日(火)	福岡教育大学附属福岡小学校	4	37	2	39
	3月1日(水)	福岡教育大学附属福岡小学校	4	34	2	36
	3月3日(金)	板付北小学校	5	42	4	46

その他の学校団体(小学校・中学校・高校)

実施数 団体数12件 児童・生徒592人 引率46人 計638人

	来館日程	来館校	学年	児童・生徒(人)	引率(人)	合計(人)	
令和4年	6月10日(金)	福岡県立古賀竟成館高等学校	1～3	37	2	39	
	7月14日(木)	佐世保市立祇園中学校	3	124	8	132	
	7月26日(火)	みやこ町立勝山中学校美術部	1～3	6	2	8	
	10月6日(木)	博多SNEC明蓬館高等学校	1～3	26	4	30	
	10月12日(水)	大野城市立大城小学校	3	29	2	31	
	10月18日(火)	大野城市立大城小学校	3	30	3	33	
	10月19日(水)	大野城市立大城小学校	3	29	2	31	
	10月21日(金)	唐津市立打上小学校	5	17	2	19	
	11月8日(火)	吉富町外一市中学校組合立吉富中学校	3	94	6	100	
	令和5年	1月27日(金)	直方市立直方北小学校	5	60	4	64
		2月15日(水)	香春町立香春思永館	4	86	6	92
2月17日(金)		リンデンホールスクール小学部	3	32	3	35	
3月17日(金)		リンデンホールスクール小学部	5	22	2	24	

その他の団体(大学等)

実施数 団体数5件 児童・生徒162人 引率8人 計170人

	来館日程	団体名	児童・生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和4年	5月7日(土)	西南学院大学 博物館教育論	20		1	21
	6月26日(日)	九州大学文学部 博物館教育論	19		1	20
	7月9日(土)	福岡教育大学	17		1	18
	11月15日(火)	麻生建築&デザイン専門学校	100		4	104
	11月27日(日)	筑紫女学園大学	6		1	7

総計 団体数26件 児童・生徒1,203人 引率89人 計1,292人

つきなみ講座

美術館の仕事と美術のさまざまな側面を知ってもらうため、月1回、美術館職員が自身の研究・業務内容、特定のテーマ等について話をする「つきなみ講座」。なお、特別展や企画展の関連事業としてミュージアムホールにて開催する回もあったため、本年度は開催場所についても記載する。

第1回 読んでみたくなる展示解説文「キャプション」のいろいろ

講師：崎田 明香 開催日：令和4年4月16日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：24人

第2回 仙厓さんのすべて(3)

講師：中山 喜一郎 開催日：令和4年5月28日(土) 15:00～16:00
場所：ミュージアムホール 聴講者数：88人

第3回 ダリの謎に迫る!《ポルト・リガトの聖母》に隠された構図

講師：渡抜 由季 開催日：令和4年6月18日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：58人

第4回 高齢者向けプログラム「いきヨウヨウ講座」について

講師：中原 千代子 開催日：令和4年7月16日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：10人

第5回 美術館の過ごし方—みんなのためのさまざまなプログラム

講師：鬼本 佳代子 開催日：令和4年8月20日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：25人

第6回 愛らしき日本美術の楽しみ方

講師：宮田 太樹 開催日：令和4年9月17日(土) 13:30～15:00
場所：ミュージアムホール 聴講者数：119人

第7回 遺香庵の什物—近代数寄者たちが仰ぎ見た高山寺

講師：後藤 恒 開催日：令和4年10月1日(土) 15:00～16:00
場所：ミュージアムホール 聴講者数：60人

第8回 藤野一友と岡上淑子

講師：正路 佐知子 開催日：令和4年11月26日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：46人

第9回 仙厓さんのすべて(4)

講師：中山 喜一郎 開催日：令和4年12月17日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：34人

第10回 インド更紗・バティック・アフリカンプリント

講師：岩永 悦子 開催日：令和5年1月21日(土) 15:00～16:00
場所：ミュージアムホール 聴講者数：49人

第11回 「第1回ホワイトウォールプロジェクト 田中千智展—地平線と道」のみどころ

講師：山木 裕子、田中 千智(画家) 開催日：令和5年2月18日(土) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム 聴講者数：54人

第12回 仙厓さんのすべて(5)

講師：中山 喜一郎 開催日：令和5年3月18日(土) 15:00～16:00
場所：ミュージアムホール 聴講者数：161人

聴講者数 計728人

福岡ミュージアムウィーク2022

博物館・美術館の社会的役割を広く多くの方に知ってもらうために、ICOM(国際博物館会議)により定められた「国際博物館の日」(5月18日)。これを記念して、福岡市内の博物館・美術館等が連携し、様々なイベントを通して「出会いの場」「知識の場」「発見の場」である博物館・美術館の魅力を味わってもらうことを目的とした事業。本年度は19施設が参加。なお、毎年実施しているスタンプラリーについては、福岡市の文化振興課主導でデジタルスタンプラリーを実施した。

連携館：福岡市博物館、福岡市美術館、福岡アジア美術館、福岡県立美術館、福岡市埋蔵文化財センター、「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、王貞治ベースボールミュージアム Supported byリポビタンD、九州大学総合研究博物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、能古博物館、福岡市動植物園、福岡市文学館、ハクハク、高取焼本家味楽窯美術館、福岡女子大学美術館、福岡科学館、チームラボフォレスト 福岡・SBI証券

期間：令和4年5月14日(土)～5月22日(日)

■ボランティアによるオンラインギャラリートーク

Zoomを利用し、当館所蔵作品数点を、参加者と対話をしながらオンライン上で紹介。ギャラリーガイドボランティアが実施。

日時：令和4年5月15日(日)、17日(火)、20日(金) 11:00～11:45

参加費：無料 **参加人数**：計12人

■初めてのベビーカーツアー

小さな子どもとその保護者を対象に、美術館の作品を見て楽しむ方法や館内の設備について紹介。

公開日時：令和4年5月18日(水)、19日(木) 10:00～10:40

参加費：無料 ※コレクション展示室観覧料は徴収 **参加人数**：子ども8人 保護者8人

■建築ツアー

福岡市美術館の建築は、戦後日本の建築界をリードした前川國男が設計した。その建物を、当館総館長・中山喜一郎の案内で鑑賞した。バックヤードや屋上なども見学。

日時：令和4年5月21日(土) 10:30～12:00

参加費：無料 **参加人数**：14人

■こども探検隊

子どもたちに美術館の機能を知ってもらうためのバックヤードツアー。美術館の仕事や作品を保存するために行っていることなどを紹介。展示室で作品鑑賞も実施。

日時：令和4年5月21日(土) 13:30～14:30

参加費：無料 **参加人数**：16人

■福岡ミュージアムウィーク2022記念講演会

「現代美術を未来に残すには?～ナム＝ジュン・バイクのビデオインスタレーションを巡って」
1996年のキャナルシティ開業とともに公開された、ナム＝ジュン・バイクのビデオ・アート作品《Fuku/Luck, Fuku=Luck, Matrix》。2021年、修繕を終え、現在、本来の姿で再び公開されている。本講演会では、同作の修繕に尽力された溝口直美氏を講師として迎え、全近現代美術係長で現アジア美術館学芸課長の山口洋三との対談形式で、修繕の軌跡を追うとともに、現代美術を未来に残すための課題と方法、意義について語った。

日時：令和4年5月22日(日) 14:00～15:30

場所：福岡市美術館1階 ミュージアムホール

参加者：64人

講師：溝口直美((株)エフ・ジェイエンターテインメントワークス)



建築ツアーの様子

企画担当：鬼本佳代子

夏休みこども美術館2022

夏休みこども美術館2022「水のリズム」

当館で毎夏開催している教育普及事業「夏休みこども美術館」。令和4年度は、水の音をテーマに近現代美術作品を紹介した。また、展覧会に関連して、3つの関連プログラムを実施し、「夏休みこどもとしょかん」ではこどもギャラリーの展示に関連する図書を展示室で紹介した。

期 間：令和4年6月9日(木)～8月21日(日) 印刷物：チラシ(A4) ワークシート(A3二つ折り)

■こどもギャラリー「水のリズム」

内容：本展は「水の音」をテーマに当館所蔵の近現代美術作品を「ゆらめく」「ながれる」「はずむ」「どんなリズムがきこえる？」の4章に分けて展示した。展示室には、親子で会話をしながら鑑賞するためのワークシートを制作し配布した。また、福岡で録音した多様な「水の音」を展示室で約15分おきに流す演出を設けた。音を聞きながら作品を鑑賞することで、想像の水の音と、実際の水音の相互効果により、作品の見え方が変化する楽しみを享受できるような展示空間とした。

期間：令和4年6月9日(木)～8月21日(日)

作品点数：18点

場所：近現代美術室Aの一部

中学生以下の入場者数：3,471人

【関連プログラム】

■初めてのベビーカーツアー

内容：ベビーカーや抱っこ紐で移動し、赤ちゃんとその保護者が一緒に作品鑑賞を楽しむためのツアー。

日時：①令和4年6月9日(木)10:00～10:40 ②令和4年6月10日(金)10:00～10:40

対象：1歳半くらいまでの子とその保護者

参加人数：①11人 ②11人

■水と色であそぶマーブリング

内容：「水とリズム」展の作品をヒントに、いろいろな色を使ってマーブリングの制作体験を行った。

日時：令和4年7月23日(土) ①11:00 ②13:00 ③13:30 ④14:30 ⑤15:00

※3回の予定が、参加希望者が多かったため5回実施した。

対象：未就学児～中学生(未就学児は要保護者の引率)

場所：アートスタジオ

参加人数：計125人

■美術館と油山市民の森で水の音をつくるワークショップ

内容：1日目は美術館で「水のリズム」展を鑑賞し、水の音を想像し音楽やリズムを制作。2日目は、油山市民の森で自然の中で聞こえる水の音を探しに森を散策した。2つの水の音の違いに意識を向けながら、鑑賞体験を深めていくもの。

日時：【1日目】令和4年8月7日(日)10:00～15:00 【2日目】令和4年8月11日(木・祝)10:00～12:30

場所：【1日目】福岡市美術館 【2日目】油山市民の森

講師：羽太広海(九州産業大学芸術学部准教授)

対象：小学生～中学生と保護者(2日間とも参加できる方のみ)

協力：(一財)福岡市市民の森協会

参加人数：延べ29人

■ギャラリーツアーforキッズ!

内容：当館のギャラリーガイドボランティアと一緒に「水のリズム」展を対話をしながら楽しく鑑賞するツアー。

日時：令和4年7月26日(火)～31日(日) ①11:00～11:30 ②14:00～14:30

対象：小学生～中学生

参加人数：計45人



こどもギャラリー「水のリズム」展示の様子

「夏休みこどもとしょかん」についてはp.30を参照。

企画担当：崎田明香

ファミリーDAY

若い世代の家族向け、開館記念日の周知と、家族で体験する美術・美術館の楽しさ、面白さを知ってもらうために、11月3日の開館記念日を含む3日間をファミリーDAYとし、平成25年度より開催している事業。令和4年度は開催期間を開館記念日から週末までの4日間とした。

日時：令和4年11月3日(木・祝)～6日(日) 10:00～15:00

延べ参加人数：子ども1,067人、大人960人 計2,027人

ボランティアスタッフ：館内ボランティア32人 学生ボランティア33人

印刷物：チラシ(A4)

講師名のないものは、美術館職員とボランティアが実施した。

■かいとうキッズ 美術館の謎をとけ!

内容：コレクション展を鑑賞して、展示作品に関するクイズに回答していくプログラム。

日時：令和4年11月3日(木・祝)、5日(土)、6日(日)
10:00～15:00

場所：(受付)1階、2階ロビー、(会場)コレクション展示室

対象：5歳くらい～

参加人数：804人

■ミニミニワークショップ

内容：キッズスペース 森のたねを制作したアーティスト・オーギカ ナエ氏制作の種の形をしたボックスから、さまざまな素材を取り出して「森のなかま」を作るワークショップ。

日時：令和4年11月3日(木・祝)、5日(土)、6日(日)
10:00～15:00

場所：2階キッズスペース 森のたね

対象：未就学児とその保護者

参加人数：343人

■走れコブウシくん!+ぬりえ

内容：コブウシ土偶など当館の所蔵品3点をモチーフにした、手足を動かして遊ぶ紙製の人形を作るワークショップ。他に所蔵品5点のぬりえも用意し、どちらか選べるようにした。

日時：令和4年11月3日(木・祝)、5日(土)、6日(日)
10:00～15:00

場所：1階ロビー

対象：3歳くらい～

参加人数：684人

■布でバッジをつくろう!

内容：東アフリカの布カンガやアジアの更紗の実物に触れ、こうした布に使われている模様をモチーフにした布のバッジを作ってもらった。

日時：令和4年11月5日(土)

①10:00～ ②11:00～ ③13:30～ ④14:30～

講師：加藤隆之(福岡教育大学准教授)



場所：アートスタジオ

対象：小学生～

参加人数：120人

■箱型カメラをつくって遊ぼう!

内容：カメラオブスキュラの原理をもとに箱型のカメラを作るワークショップ。実物のアナログカメラやフィルムを見てカメラのしくみに触れたり、「奈良原一高「無国籍地」／「人間の土地」」展も鑑賞した。

日時：令和4年11月3日(木・祝) 13:00～15:00

講師：長野聡史(写真家)

場所：アートスタジオ、レクチャールーム、近現代美術室B

対象：小学生～(事前申込制)

参加人数：33人

■初めてのベビーカーツアー

内容：小さな子どもとその保護者を対象に、美術館を楽しむ方法や館内の設備を紹介するツアー。

日時：令和4年11月4日(金)

①9:40～10:20 ②10:40～11:20

場所：コレクション展示室など館内各所

対象：1歳半くらいまでの子どもとその保護者(事前申込制)

参加人数：18人

■屏風をつくろう!

内容：屏風作品を鑑賞して屏風のしくみを知り、そのしくみに沿って縮小サイズの屏風を制作するワークショップ。図版は所蔵品の複製や参加者オリジナルのものなどを使い、それにあわせて色紙や包装紙を使い表装も行った。

日時：令和4年11月6日(日) 13:00～15:00

場所：アートスタジオ、古美術企画展示室

対象：小学生～(事前申込制)

参加人数：25人

企画担当：中原千代子

バリアフリーギャラリーツアー

福岡市美術館では、教育普及活動方針として「アートといきる」を掲げ、その具体的な活動として「アクセシビリティの向上」をうたっている。「多様な背景を持った人が集う場である美術館で、物理的のみならず心理的にもすべての人が安心して学び、過ごせるような空間づくりを目指す」という目的に従い、身体的な障がいをもった人たちもそうでない人々も、親しく、安心して、より日常的に、当館のコレクション展を楽しめるよう、令和2年度よりバリアフリーをうたったギャラリーツアーを実施している。本年度は、昨年度と同様、視覚障がい者・聴覚障がい者・車いす利用者向けのコレクションのギャラリーガイドツアーを行った。また、普段は車いすを利用しない人たちのための車いすツアーも実施した。



視覚障がい者のためのおしゃべりとてぎわりのツアーの様子

■視覚障がい者のための おしゃべりとてぎわりのツアー

目の見える人、見えない人が一緒に、グループごとに作品について話し合いながら鑑賞を行った。また当館学芸員の保存修復担当学芸員の監修のもと、1点彫刻作品に触れて鑑賞した。また、展示室での鑑賞後、アートスタジオにて「どこでも美術館」の教材であるカンガに触れて鑑賞した。なお、当館ボランティア1名が本プログラムをサポートした。

日時：令和4年9月4日(日) 14:00～15:30

講師：石田陽介・濱田庄司・松尾さち(ギャラリーコンパ)

参加人数：16人(うち晴眼者11人)

■聴覚障がい者のための 目で聴くツアー

手話通訳者を介して、対話をしながら当館のコレクションを鑑賞した。また、手話が苦手な参加者には、当館職員が筆記を行い、当館ボランティア2名が誘導等のサポートを行った。また、今回より聞こえるが手話を使用する方も参加可とした。

日時：令和4年9月10日(土) 14:00～15:30

参加人数：11人

協力：福岡市聴覚障がい者情報センター

■車いす利用者のためのゆったり車いす鑑賞ツアー

車いす利用者を対象としたギャラリーツアー。当事者と介助者と一緒に、学芸員が当館コレクションを対話をしながら紹介した。

日時：令和4年9月11日(日) 10:00～12:00

参加人数：1人(介助者4人)

■車いすを利用しない方の車いすで美術館ツアー

普段車いすを利用しない人たちが、車いすに乗って展示室へ行き、学芸員による対話型鑑賞を体験した。

日程：令和4年9月11日(日) 14:00～15:30

参加人数：5人

全て参加費無料

企画担当：鬼本佳代子

第8回 いきヨウヨウ講座「今日の気持ちを香りに変える」

内容：シニア世代の文化活動をサポートする教育活動のひとつとして、平成25年度より開始。65歳以上の方を対象に、作品鑑賞やものづくり、身体表現など、アートを通して心の充実を実感してもらうことを目指している。

令和4年度は「香り」をテーマに実施し、展示中の所蔵品から香炉や仏像、油彩画などを鑑賞しながら、それぞれの作品に関連する「香り」を想像し、実際にお香の匂いを嗅いで楽しんだ。その後は、自分の気持ちを表す香りを調合し、匂い袋を制作した。

日程：令和5年3月19日(日)

場所：アートスタジオ、コレクション展示室

講師：大津留聡(大分香りの博物館)

参加人数：20人



企画担当：鬼本佳代子

博物館実習

博物館法による学芸員資格取得のための実習を大学からの依頼により毎年実施している。令和4年度は下記大学の7人を受け入れた。実習期間は令和4年4月26日から11月30日のうちの10日間。

■北九州市立大学	文学部 比較文化学科	1人
■筑紫女学園大学	文学部 日本語・日本文学科	1人
■西南学院大学	人間科学部 心理学科スポーツ心理学専攻	1人
■福岡大学	人文学部 歴史学科	1人
■佐賀大学	芸術地域デザイン学部 地域デザインコース	1人
■九州産業大学	芸術学部 芸術表現学科	1人
■九州大学	九州大学大学院統合新領域学部 ユーザー感性学専攻感性価値クリエーションコース	1人

職場体験学習

学校教育の一環として職場体験学習が行われており、美術館でも本年度下記の1校を受け入れて、コレクション展示の受付、監視等の体験学習を行った。

令和4年10月26日(水)、11月2日(水) あおぞら高校 8人(各日4人)

※令和4年9月6日(火)に予定していた福岡市立春吉中学校は台風11号の接近に伴い中止。

図書企画

■美術情報コーナー図書特集

美術情報コーナーの書棚の一部に当館開催の展覧会に関する資料の特集を行い、来館者に美術に関する知識や興味をより深めてもらえるよう、資料を通しての普及啓蒙活動を行った。

1.コレクション展関連図書特集

コレクション展示室での各展示に関連する図書を特集した。

2.特別展関連図書特集

- ・令和4年4月12日(火)～6月19日(日)「ミナペルホネン／皆川明 つづく」関連
- ・令和4年6月21日(火)～8月21日(日)「tupera tuperaのかおてん。」関連
- ・令和4年8月30日(火)～10月16日(日)「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」関連
- ・令和4年11月1日(火)～令和5年1月9日(月・祝)「藤野一友と岡上淑子」関連

■夏休み子どもとしょかん

会期：令和4年6月9日(木)～8月21日(日)

会場：近現代美術室A

内容：夏休み子ども美術館2022「水のリズム」に関して、美術作品の鑑賞のヒントが書かれているものや展示作品に関連するものなど、美術に関心を持ったり理解を深めてもらえたりするような児童向けの絵本・美術書など19冊を特集した。

企画担当：中務美紀

ボランティア活動

当館では、昭和51年にボランティアを募集し、昭和54年の美術館開館と同時に活動を開始した。現在、ギャラリーガイドボランティア、新聞情報ボランティア、図書整理ボランティア、美術家情報整理ボランティアが活動している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の活動内容に戻し、通常通りボランティア活動を行った。

令和4年度の登録人数

ギャラリーガイド	新聞情報	図書整理	美術家情報整理	合計(人)
84	42	26	12	164

ギャラリーガイドボランティア

[活動内容]

■ギャラリーツアー

開館日の午前11時と午後2時に40分程度、当館の所蔵作品を紹介するギャラリーツアーを実施している。ボランティアは、コレクション展の展示作品から3作品を選び、対話型で作品鑑賞をする活動を行っている。参加は無料。

■団体向けツアー

ギャラリーツアー以外に、申し込みをいただいた団体へのギャラリーツアーを行っている。参加団体は以下の通り。

実施数 団体数11件 児童・生徒104人 一般96人 引率44人 総計244人

来館日程	団体名	児童・生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和4年	5月11日(水)	南区大池校区福祉協議会	30		30
	5月28日(土)	放課後等デイサービス ルームズ唐人町	9	3	12
	7月22日(金)	言葉の森くるめ	13	6	19
	8月18日(木)	放課後等デイサービス はぐぼん南福岡	10	4	14
	11月9日(水)	片江公民館		24	26
	11月9日(水)	中学校美術教育研究会		30	30
	11月26日(土)	古賀市アート・バス	17	3	26
令和5年	2月28日(火)	日田市公民館運営委員	9		9
	3月12日(日)	福岡SGGクラブ		17	17
	3月28日(火)	大牟田市子どもアートスクールツアー	40	2	42
	3月30日(木)	しゅんよう保育園	15	4	19

■スクールツアー

学校団体を対象にギャラリーツアーを行っている。詳細は「スクールツアー」の項目(p.23)を参照のこと。

新聞情報ボランティア

【活動内容】

日曜日・金曜日を除く毎日、曜日毎に担当する新聞を決め、新聞の切り抜き及びファイル作業などを行う。月に1回合同作業日を設け、各グループ間での情報交換・意志の統一を図る。死亡記事の整理作業は、月末に各曜日グループ持ち回りで行う。

月曜日	：毎日新聞
火曜日	：読売新聞
水曜日	：西日本新聞
木曜日	：朝日新聞
土曜日	：日経新聞

コロナ対策による活動日・活動時間の制限を解除し、通常のシフトによる活動に戻ったが、合同作業は実施せず、ファイリング作業は担当学芸員が行なった。合同作業は制限期間中に蓄積された新聞が一定の数に収まった段階で再開する予定である。

図書整理ボランティア

【活動内容】

基本的に火曜日から土曜日までの各曜日午前と午後の班に分かれ、資料整理業務に関する作業を行った。

■作家資料整理

作家に関するパンフレット資料への受付印の押印、資料保存用の袋および検索用カードを作成する。
古くなった資料保存用の袋を新しいものに作り替える。

■広報誌整理

他機関発行の広報誌を綴じる作業、および広報誌を綴じておくファイルを作成する。

■雑誌記事整理

雑誌に掲載されている美術関係の記事内容を種別する。
福岡市美術館の所蔵品、施設、展覧会に関する雑誌掲載記事索引ファイルを作成する。

■紀要・年報類の受入

ラベルに該当する機関コードを記入し、資料に添付する。
資料を書架に配架する。

■パソコン入力

図録に掲載されている作家名をパソコンに入力する。また、入力された情報が正しいかどうかチェックする。

■新規受け入れ図書の点検・配架

新しく受け入れる図書の装備(登録番号、ラベル、蔵書印)を点検後、所定の位置に配架する。

■書架整理

配架している図書の場所を調整、移動、整理する。

美術家情報整理ボランティア

【活動内容】

- ①美術家による活動についてのDM(ダイレクトメール)を内容別に分類し、作家名、展覧会(イベント)名、会期、会場名等の基本情報をデータベース化している。令和5年3月31日現在で25583件のデータを入力済み。
- ②データ入力の済んだDMを整理し、作家名別、会場別に保管する。

【活動日】

月～金曜日。各曜日で午前と午後の各班にて作業を行う。
昨年度に続き、活動日・活動時間を制限したシフトを組み、活動を行った。

出版物

■福岡市美術館活動の記録

名称	規格	頁数	発行日
令和3年度 福岡市美術館活動の記録	A4	75	令和5年1月31日

■展覧会図録

名称	規格	頁数	発行日
明恵礼讃“日本最古之茶園”高山寺と近代数寄者たち	B5	96	令和4年8月31日

■コレクション展リーフレット(近現代美術)

No.	展覧会名	規格	頁数	会場	発行日
作品リスト	新収蔵品展	B5	2	近現代美術室A・C	令和4年3月24日
310	絵になる景色 吉田博を中心に	B5	4	近現代美術室B	令和4年3月24日
作品リスト	コレクションハイライト	B5	4	近現代美術室A・C	令和4年6月9日
311	森山安英の絵画 —アルミナ頃からヒロシマシリーズまで	B5	4	近現代美術室B	令和4年6月9日
作品リスト	夏休み子ども美術館2022 水のリズム	B5	2	近現代美術室A	令和4年6月9日
312	一本の線のためには・・・	B5	4	近現代美術室A	令和4年8月24日
作品リスト	変貌する絵画—アンフォルメル、具体、九州派	B5	2	近現代美術室B	令和4年8月24日
313	奈良原一高「無国籍地」／「人間の土地」	B5	4	近現代美術室B	令和4年11月1日
作品リスト	福岡をみる	B5	2	近現代美術室A	令和4年11月1日
作品リスト	九州の女性画家たち	B5	2	近現代美術室A	令和5年1月5日

■コレクション展リーフレット(古美術)

No.	展覧会名	規格	頁数	会場	発行日
作品リスト	春の名品展	B5	2	松永記念館室	令和4年4月12日
田中丸コレクション 解説第9号	田中丸コレクション 九州やきもの風土記 陶器編	B5	6	古美術企画展示室	令和4年5月31日
241	松永耳庵と益田鈍翁	B5	4	松永記念館室	令和4年6月21日
作品リスト	秋の名品展	B5	2	松永記念館室	令和4年9月6日
作品リスト	屏風絵の世界	B5	2	古美術企画展示室	令和4年10月26日
242	老樗荘の松永耳庵	B5	4	松永記念館室	令和4年11月15日
243	仙厓展	B5	4	古美術企画展示室	令和4年12月20日
244	松永耳庵と同時代の美術家	B5	4	松永記念館室	令和5年1月24日
245	東南アジア美術を旅する タイ、カンボジア、ミャンマー	B5	6	古美術企画展示室	令和5年1月24日
作品リスト	東光院のみほとけF	B5	2	東光院仏教美術室	令和5年3月6日

■研究紀要

名称	規格	頁数	発行日
福岡市美術館 研究紀要 第11号	A4	43	令和5年2月15日

■福岡市美術館 季刊誌 エスプラナード

No.	内容	規格	頁数	発行日
207	たずねる。ミナ ベルホネン／皆川明 つづく[忠あゆみ]／皆川明氏コメント／ふかめる。人はなぜ風景を描いてきたのか?[忠あゆみ・宮田太樹]／つながる。中学校の美術と美術館(平尾中学校美術家 網崎璃図夢先生)[崎田明香]／総館長日記[総館長 中山喜一朗]／のんびり美術館／所蔵品紹介「溪流」[忠あゆみ]／美術館スケジュール／LECTURE つきなみ講座／ふくおか応援寄付／わたくしclub／編集後記／利用案内	B5 変形	12	令和4年4月1日
208	所蔵品紹介「和歌懐紙」[宮田太樹]／かわいくって、ユーモラス!鳥獣戯画をもっと楽しむ方法[宮田太樹]／明恵上人を慕った人々が納めた茶道具の数々[後藤亘]／夏休み子ども美術館2022 水のリズム[崎田明香]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／ふくおか応援寄付／わたくしclub／利用案内	B5 変形	12	令和4年7月1日
209	所蔵品紹介「私を私自身から救ってください」[忠あゆみ]／藤野一友と岡上淑子 異なる手法で表す幻想世界[正路佐知子]／新しいコレクションハイライトをご紹介。アートで「分かり合い、分かち合う」感覚を[忠あゆみ]／ふくおか応援寄付ってどんなふうに使われているの?～美術館編[崎田明香]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／ふくおか応援寄付／わたくしclub／MUSEUM SHOP／利用案内	B5 変形	12	令和4年10月1日
210	所蔵品紹介「流水梅柳文蒔絵螺鈿鑑鑑箱」[後藤亘]／田中千智展インタビュー[山木裕子]／保存・修復というおしごと[渡抜由季]／美術館でやさしい日本語[崎田明香]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／ふくおか応援寄付／わたくしclub／RESTAURANT & CAFÉ／利用案内	B5 変形	12	令和5年1月1日

三館連携・協力事業

内 容：保健福祉局からの依頼により、9月21日の国際アルツハイマーデー啓発のため、当館、福岡市博物館、福岡アジア美術館が各館のSNSで高齢者プログラムについて発信した。発信内容は前年度末に執筆した紀要の内容と毎年実施している「いきヨウヨウ講座」についてであった。

発 信 日：令和4年9月21日(水)

その他の連携企画

■やさしい日本語ツアー

内 容：当館の多文化共生プログラムとして、福岡よかトピア国際交流財団と共催し、福岡市内に住む日本語を母語としない親子を対象に、当館のコレクション展を「やさしい日本語」で対話をしながら鑑賞するツアーを実施した。また、参加者には館内の日本語表記などについて、モニターとして意見を述べてもらった。

場 所：アートスタジオ、コレクション展示室

参加人数：22人

共 催：福岡よかトピア国際交流財団

■第61回社会教育研究全国集会（九州集会） 第15分科会（博物館）

内 容：本年度、社会教育研究全国集会が福岡にて開催されるにあたり、社会教育推進全国協議会の依頼により、第15分科会（博物館）の2日目のプログラムを福岡市美術館にて開催することとなった。本分科会では、当館および大牟田市動物園、直方谷尾美術館等の教育活動の事例、イギリス、フランス、コスタリカの博物館と地域との関わりについて報告があった。その後、「市民とともに歩む地域の博物館のこれからの社会的役割」についてグループディスカッションを行った。美術館・博物館をはじめとする社会教育施設職員その他、社会教育活動に関わる市民も参加した。

日 時：令和4年9月3日(土)13:30～16:30

場 所：アートスタジオ

参加人数：14人

主 催：社会教育推進全国協議会

共 催：福岡市美術館

■令和4年度 文化庁 Innovate MUSEUM事業

内 容：「めぐる季節のアートバス スマイル茶会へようこそ」九州産業大学美術館が主体となった標記事業の連携先として参加。同美術館が東区の高齢者を募集し、バスで当館へ案内。当館では、アーティスト・オーギカナエによる「スマイル茶会」を実施し、参加してもらった。また、当館ボランティアによるギャラリートークも行なった。

日 時：令和4年11月30日(水)13:30～16:30

場 所：アートスタジオ、レクチャールーム、中庭およびコレクション展示室

参加人数：20人

ワークショップ講師：オーギカナエ(アーティスト)

ワークショップ協力：藤丸阿弥(和菓子調整處 藤丸)

主 催：学校法人中村産業学園、九州産業大学美術館、福岡市美術館

■植物園で「想いの種」をつくろう!

内 容：どこでも美術館の教材の一つ「ワークショップボックス」を使い、福岡市植物園と共催で、ワークショップを実施した。植物園で種を観察後、「ワークショップボックス」教材の一つである小林重予《記憶の光合成》等を鑑賞。それらの体験を元に、種になぞらえて自分の想いを粘土で立体作品として制作した。

日 時：令和4年12月3日(土)10:00～14:00
令和4年12月4日(日)10:00～14:30

場 所：福岡市植物園(12月3日)、福岡市美術館(12月4日)

講 師：二又徳子(福岡市植物園) 中原千代子(福岡市美術館)

参加人数：延べ19人

共 催：福岡市植物園

協力事業

■南市民センター リニューアルオープン事業

内 容：福岡市南市民センターのリニューアルオープン事業の一つとして、未就学児を対象にした「ミニミニワークショップ」、どこでも美術館の教材を用いて作品鑑賞をするプログラム、「カンガを着てみよう!」ワークショップ、所蔵作品のぬり絵を実施した。

日 時：令和4年8月27日(土)10:00～16:00

場 所：南市民センター

参加人数：ミニミニワークショップ 139人
カンガを着てみよう! 190人
どこでも美術館でアート体験しよう! 124人
所蔵品のぬり絵 124人

主 催：南区市民の祭り運営委員会

共 催：南区役所

■大牟田市動物園ライブ配信

内 容：特別展「国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展の広報も兼ね、大牟田市動物園のライブ配信に協力をした。

日 時：令和4年9月24日(土)16:30～

場 所：YouTubeライブ配信

登 壇 者：宮田太樹、鬼本佳代子

ファシリテーター：富澤奏子(大牟田市動物園)

■東区芸術文化祭 福岡市美術館「カンガを着てみよう!」

内 容：福岡市東区が主催する「令和4年度東区芸術文化祭」のプログラムの一つとして、どこでも美術館の教材「染め・織り」ボックスを使って、カンガを身にまとうワークショップを実施した。

日 時：令和4年12月18日(日)10:00～15:00

場 所：なみきスクエア1階「ひまわりひろば」

参加人数：19人

主 催：東区役所(東区総務部企画振興課)

紀要の発行

令和4年度、福岡市美術館において「福岡市美術館 研究紀要 第11号」を発行した。
内容は以下の通りである。

題目	執筆者
ファミリー DAY についての一考察 ～小さい子どもとその親による美術館利用を考える～	鬼本佳代子
【報告文】作業中に起きたワニスの白化現象についての一考察： 藤野一友（騎士）を事例に	渡抜由季
『雲中庵茶会記』翻刻稿 ⑦	後藤恒

美術資料

令和4年度は近現代美術作品37点、古美術作品3件を収集した。

近現代美術

所蔵品番号順

寄贈(30点)

No.	種別(日)	所蔵品番号	作者名(日)	作品名(日)	制作年	技法(日)	サイズ(cm)
1	素描	1-D-473	田部 光子	題不詳	1967-68頃	インク、印刷物・紙	54.0×38.0
2	素描	1-D-474	田部 光子	題不詳	1967-68頃	インク・紙	54.0×38.0
3	素描	1-D-475	田部 光子	題不詳	1967-68頃	インク・紙	54.0×38.0
4	彫刻等	1-G-98	田部 光子	MY SON II	1969頃	マネキン、石膏、テント生地	120.0×50.0×40.0
5	油彩等	1-A-753	田部 光子	迷彩をほどこされた風景	1970	油彩・画布	131.0×162.0
6	油彩等	1-A-754	田部 光子	迷彩をほどこされた風景	1970	油彩・画布	131.0×162.0
7	油彩等	1-A-755	田部 光子	穂の女	1978	油彩・画布	161.8×112.2
8	油彩等	1-A-756	田部 光子	父母の金婚式	1982	油彩・画布	162.2×112.2
9	油彩等	1-A-757	田部 光子	題不詳(人形シリーズ)	1983	油彩・画布	130.3×80.3
10	油彩等	1-A-758	田部 光子	へんじょうこんごう	1984	油彩・板	145.5×97.3
11	油彩等	1-A-759	田部 光子	Hana	1990	油彩・板	162.0×162.0
12	油彩等	1-A-760	田部 光子	Hana	1990	油彩・板	162.0×162.0
13	油彩等	1-A-761	田部 光子	Apple Zoo -Apple Series-	1993	油彩、印刷物、羽根、レース、プラスチック・板	60.5×72.7×5.0
14	油彩等	1-A-762	田部 光子	I Love N.Y. -Apple Series-	1995	油彩、アクリル、印刷物、金箔、木・板	60.0×60.0×7.0
15	彫刻等	1-G-99	田部 光子	Dear Objects	2001	油彩、石膏、人形、缶、ガラス、プラモデル、スツール、刷毛、アクリルケース	58.0×58.0×65.5
16	彫刻等	1-G-100	田部 光子	非芸術で遊ぼう	2001-2020	戸棚、豆本、木、石膏、人形、革、布、煙草、紙	70.8×55.5×16.0
17	彫刻等	1-G-101	田部 光子	非芸術で遊ぼう	2001-2020	戸棚、豆本、魚の骨、木、石膏、人形、革、布、紙	71.5×55.0×16.0
18	彫刻等	1-G-102	田部 光子	2001年の林檎	2001	石膏、木、アクリル	29.0×30.7×23.0
19	彫刻等	1-G-103	田部 光子	Apple Chair	2003	油彩、石膏、真鍮、ブック型ボックス、ビーズ、椅子(2脚)	91.9×37.5×47.5
20	油彩等	1-A-763	田部 光子	万有引力	2004	アクリル、金箔、印刷物・画布	1000.0×214.5
21	油彩等	1-A-764	田部 光子	林檎物語	2010	オイルパステル、木炭、印刷物、金箔、プラチナ箔、シルクスクリーン・画布	180.0×200.0
22	油彩等	1-A-765	田部 光子	進化はとても創造的です	2017	油彩、金箔、真鍮・画布	162.0×162.0
23	素描	1-D-476	田部 光子	題不詳	不詳	インク・紙	25.2×18.6
24	油彩等	1-A-766	木下 新	ドン・キホーテ	1957	油彩・画布	53.0×45.5
25	日本画	1-B-247	上田 宇三郎	裸婦	1952	紙本着色	72.5×60.4
26	日本画	1-B-248	上田 宇三郎	石(4ヶの石)	1957	紙本着色	72.5×60.5
27	その他	1-K-420	森山安英ほか	森山安英資料一式			
28	その他	2-K-12	皆川 明	ハナウサギ	2022	色紙、インク・紙	42.4×30.2
29	その他	15-K-1	編・コピー春原武彦 発行：追悼藤野一 友展をすすめる会	藤野一友集 ーデッサン・エスキース・オリジナル・コピーー 1	1982	図版97枚(映入)	43.7×31.8
30	その他	15-K-2	編・コピー春原武彦 発行：追悼藤野一 友展をすすめる会	藤野一友集 ーデッサン・エスキース・オリジナル・コピーー 2	1982	図版97枚(映入)	44.0×31.5

購入(7点)

No.	種別(日)	所蔵品番号	作者名(日)	作品名(日)	制作年	技法(日)	サイズ(cm)
31	映像	1-L-2	山内 光枝	つれ潮	2018	シングルチャンネル映像、サウンド 78分	
32	映像	1-L-3	山内 光枝	潮汐 2012-2021	2012-21	2チャンネル映像、サウンド 11分14秒	
33	写真	1-F-551	(撮影者不詳)	イルフ逃亡	1939頃	ゼラチンシルバープリント	10.2×15.3
34	写真	1-F-552	(撮影者不詳)	イルフ逃亡	1939頃	ゼラチンシルバープリント	10.2×15.3
35	映像	27-L-1	石原 海	重力の光	2022	映像1点(30分、USBメモリ)、写真6点 (インクジェットプリント)、ムービングライ ト、フォーム素材	
36	油彩等	27-A-1	鎌田 友介	Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/ U.S./Japan)	2021	アクリル塗料、インク、鉄、アクリル板、 インクジェットプリント、紙、木材	227.5×364.0× 18.0
37	油彩画等	27-A-2	チョン・ユギョン	Let's all go to the celebration square of victory!	2018	アクリル・画布	223.0×330.0× 6.0

古美術

所蔵品番号順、研究資料は末尾に記載

購入(2件)

No.	種別	所蔵品番号	作者名・産地	作品名	時代	素材・技法	法量(cm)
1	陶磁	14-Ha-212	中国	加彩武人俑	唐時代・8世紀	陶製	高さ35.0 幅12.5
2	染織	14-Hd-409	インド	草花文様木版更紗掛布	19世紀	木版捺染	縦255.5 横241.1

寄贈(1件)

No.	種別	所蔵品番号	作者名・産地	作品名	時代	素材・技法	法量(cm)
1	絵画	14-B-83	川喜田半泥子	松樹下草庵図	昭和時代	紙本墨画	縦114.8 横31.7

図書・映像資料

図書

		単位(冊)	
		和書	洋書
購入	図書	49	9
	図録	1	5
	年報・紀要	0	0
寄贈	図書	123	15
	図録	453	37
	年報・紀要	235	0
製本資料		0	1
雑誌		382	60
合計		1,243	127
総計		1,370	

映像資料

		単位(点)
購入	CD	0
	DVD	0
寄贈	CD	0
	DVD	1
合計		1

修復

近現代美術

種別	所蔵品番号	産地(作者)	作品名	法量(cm)	制作年	品質	数量
油彩等	2-A-96	藤野 一友	騎士	41.0×31.7	1965頃	油彩・画布	1
彫刻	2-G-23	草間 彌生	南瓜	200.0×250.0×250.0	1994	FRP、ウレタン塗料	1
彫刻	3-G-82	インカ・シヨニバレCBE	桜を放つ女性	193.0×436.0×244.0	2019	マネキン、綿布、地球儀、鋼鉄、真鍮、亜鉛合金、木、樹脂、絹	1

古美術

種別	所蔵品番号	産地(作者)	作品名	法量(cm)	制作年	品質	数量
絵画	24-B-4	仙厓義梵	布袋図	縦93.4 横33.6	江戸時代	紙本墨画	1幅

貸出

近現代美術

種別	作家名	作品名	所蔵品番号	出品展覧会	展覧会場	展覧会期
彫刻等	関根 伸夫	空相一黒 No.9	2-G-34	テクテクテクネー：技法でひらく想像世界	長崎県美術館	令和4年4月9日(土)～6月5日(日)
彫刻等	伊津野 雄二	歌	16-G-9			
日本画	上田 宇三郎	水	1-B-59			
日本画	上田 宇三郎	水	1-B-57			
日本画	朝倉 摂	日本1958	2-B-37	生誕100年 朝倉摂	神奈川展：神奈川県立近代美術館葉山 東京展：練馬区立美術館 福島展：福島県立美術館	神奈川展：令和4年4月16日(土)～6月12日(日) 東京展：令和4年6月26日(日)～8月14日(日) 福島展：令和4年8月27日(土)～10月16日(日)
版画	坂本 繁二郎	日本風景版画 第六輯 筑紫之部 櫻寺神社	1-E-15	絵でみる太宰府・詩でみる太宰府	太宰府市文化ふれあい館	令和4年4月23日(土)～6月10日(金)
油彩等	伊藤 研之	湖	1-A-210	アヴァンギャルド勃興	東京都写真美術館	令和4年5月20日(金)～8月21日(日)
油彩等	伊藤 研之	音階	1-A-209	近代日本の前衛写真		
その他	高橋渡(発行)	irf 1	1-K-416			
写真	(撮影者不詳)	イルフ逃亡	1-F-551			
写真	久野 久	題不詳(貝殻)	1-F-570			
写真	久野 久	題不詳	1-F-562			
写真	久野 久	肖像	1-F-555			
写真	久野 久	題不詳	1-F-564			
写真	久野 久	SPOT	1-F-572			
写真	久野 久	題不詳	1-F-553			
写真	久野 久	海のショーウィンドウ	1-F-554			
油彩等	坂本 繁二郎	大島の一部	1-A-43	生誕140年 ふたつの旅	東京展：アーティゾン美術館 福岡展：久留米市美術館	東京展：令和4年7月30日(土)～10月16日(日) 福岡展：令和4年10月29日(土)～令和5年1月22日(日)
油彩等	青木 繁	秋声	1-A-288	青木繁×坂本繁二郎		
日本画	横山 大観	臘月	2-B-6	インド近代絵画の精華～ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ	福岡アジア美術館	令和4年9月15日(木)～12月25日(日)

種別	作家名	作品名	所蔵品番号	出品展覧会	展覧会場	展覧会期
油彩等	ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	3-A-5	時を超えるイヴ・クラインの想像力—不確かさと非物質的なるもの	金沢21世紀美術館	令和4年10月1日(土)～令和5年3月12日(日)
油彩等	イヴ・クライン	人体測定 (ANT 157)	3-A-43			
版画	藤森 静雄	亡びゆく肉 ([月映]Ⅳ所収)	1-E-366	ピアズリーの系譜 アールヌーヴォー、日本の近代画家たち	下関市立美術館	令和4年11月19日(土)～令和5年1月29日(日)
版画	恩地 孝四郎	裸形のくるしみⅢ ([月映]Ⅲ所収)	2-E-232			
版画	田中 恭吉	冬虫夏草 ([月映]Ⅲ所収)	2-E-252			

古美術

種別	産地(作者)	作品名	所蔵品番号	出品展覧会	展覧会場	展覧会期
絵画		平家公達草紙	6-B-19	「平家物語絵—修羅と鎮魂の絵画—」展	海の見える杜美術館	令和4年3月19日(土)～5月15日(日)
絵画	仙厓義梵	太宰府十二景	9-B-34	企画展「絵でみる太宰府・詩でみる太宰府」	太宰府市文化ふれあい館	令和4年4月23日(土)～6月10日(金)
絵画	仙厓義梵	都府楼図	9-B-44			
絵画	田能村竹田	青緑倪法山水図巻	7-B-117	「山水画と風景画のあいだ—真景図の近代」	下関市立美術館	令和4年8月20日(土)～10月16日(日)
絵画	伝・雪舟	山水図	6-B-22	雪舟と狩野派	山口県立美術館	令和4年9月16日(金)～10月16日(日)
陶磁		雨漏撃手茶碗 銘「天野屋」	6-Ha-70	黎明館企画特別展「茶の湯と薩摩」	鹿児島県立歴史・美術センター黎明館 第2特別展示室	令和4年9月22日(木)～11月6日(日)
陶磁	高取焼 内ヶ磯窯	斑釉透文手付台鉢	14-Ha-138			
陶磁	高取焼 内ヶ磯窯	掛分割高台沓茶碗	14-Ha-4			
陶磁	薩摩焼	薩摩火計手茶碗	14-Ha-45			
陶磁		黄瀬戸縁鉢	6-Ha-44			
金工		芦屋雪笹釜	6-Hc-106			
絵画		塩電松島図屏風	4-B-101	特別展 独眼竜 伊達政宗	福岡市博物館	令和4年10月8日(土)～11月27日(日)
書跡	伊達政宗	伊達政宗消息	4-I-4			
陶磁	薩摩焼	薩摩 黒褐釉肩衝茶入	14-Ha-109	都城喫茶ことはじめ	都城島津邸	令和4年10月15日(土)～令和4年11月27日(日)
絵画	仙厓義梵	利休居士像	11-B-5			
其他	片桐石州(貞昌)	石州竹寸切花入	6-Hf-90			
陶磁	薩摩焼	薩摩肩衝茶入 銘「九重」	4-Ha-11			
絵画	伝・沈周	山水図巻	11-B-3	なかつ南画万華鏡	中津市歴史博物館	令和4年11月19日(土)～令和5年1月15日(日)
絵画	張瑞圖	山水図	7-B-146			
絵画	伝・牧谿筆、簡翁居敬賛	杜子美図	6-B-5			
絵画	帆足杏雨	耶馬溪図巻	11-B-17			
絵画	狩野探幽	観音・四皓・七賢図	4-B-11	企画展「尾形家三代—探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師—」	九州歴史資料館	令和5年1月18日(水)～3月12日(日)

広報業務

ホームページとSNSの運用

美術館の概要や展示、イベント等をホームページで紹介するほか、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)を活用した情報発信を積極的に行った。

- 福岡市美術館ホームページ <https://www.fukuoka-art-museum.jp/>
- 福岡市美術館ツイッター https://twitter.com/fukuoka_fam
- 福岡市美術館フェイスブック <https://www.facebook.com/fukuokaartmuseum/>
- 福岡市美術館インスタグラム <https://www.instagram.com/fukuokaartmuseum/>

令和4年度ホームページ閲覧数、SNSフォロワー数

ホームページ閲覧数	ツイッター フォロワー数	フェイスブック フォロワー数	インスタグラム フォロワー数
2,819,616	11,215人	5,987人	13,442人

プレスリリースなどによる広報

テレビ、新聞、美術出版社、タウン情報誌等の各種メディアに対してプレスリリースを配信。観覧者誘致に向けた取り組みを行う。各種メディアへの情報提供延べ件数/6,109件

イベントの実施

緑溢れる大濠公園に位置する当館の魅力を最大限に活用し、多くの市民や観光客が楽しめるミュージアムイベントを、年間を通じて実施し、美術以外の入口からも美術館を訪れる人々の賑わいを創出。令和4年度はコンサートを始め、落語会やワークショップのほか、屋外スペースで春まつりを実施した。

実施事業		実施日	会場	参加人数
第12回桂春蝶独演会	落語会	令和4年5月21日(土)	ミュージアムホール	145人
夏休みマスターロード 博多人形絵付け体験 マスターロード サマーカップ2022	ワークショップ	令和4年7月31日(日)	アートスタジオ	3回合計 23人
Fukuoka Art Museum Concert ジャズを聴きたくて All the Things You are	コンサート	令和5年1月9日(月・祝) ①13:30~14:30 ②16:00~17:00	ミュージアムホール	2回合計 302人
ワークショップ 『WEEKEND*RISO*CLUB~刷って驚き! 見て楽しい!''リソグラフのプリント体験~』	ワークショップ	令和5年2月11日(土・祝) 令和5年2月12日(日)	2階ロビー	2日間合計 67人
千年夜市 特別編 -福岡市美術館 春まつり-	祭り	令和5年3月21日(火・祝)~ 3月26日(日)	エスプラナード アプローチ広場	会期合計 6,930人

カフェ・レストラン

1階と2階には、ホテルニューオータニ博多が運営するカフェ「アクアム」と、レストラン「プルヌス」があり、特別展開催期間中は、特別展コラボメニューの提供も行っている。

カフェ「アクアム」

アプローチ広場横にあるガラス張りのカフェでは、きらめく水面を眺めながら軽食やドリンクを楽しめる。朝食にぴったりのパンやコーヒー、サンドウィッチ等のランチメニュー、ケーキやソフトクリーム、アルコールやオードブルを取りそろえ、時間帯や目的によってお好みのアイテムを選択できる。

営業時間/9:00~19:00(ラストオーダー18:30)
※7月~10月の金・土曜日は9:00~20:00
(ラストオーダー19:30)

席数/58席



レストラン「プルヌス」

当館で最も眺めのいい位置にあるレストランでは、大濠公園やエスプラナードを一望できる。地元食材を使った料理を中心に、和食・洋食のランチ、夕日や夜景とともに味わうワイン、週末限定のランチ等多彩なメニューを提供。また、展覧会とのコラボレーションメニューも実施している。

営業時間/平日 11:00~20:30(ラストオーダー19:30)
土・日・祝 9:30~20:30(ラストオーダー19:30)

席数/84席



6月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展示室		ミナ ペルホネン／皆川明 つづく 観覧者数:4,461人					ミナ ペルホネン／皆川明 つづく 観覧者数:6,939人					ミナ ペルホネン／皆川明 つづく 観覧者数:7,930人					—					—									
ギャラリーA		第18回 九大美術会展 観覧者数:469人					国際公募 第5回国際書画展 観覧者数:669人					火曜日の仲間展 観覧者数:486人					第117回太平洋展・第56回太平洋西日本展 観覧者数:3,170人					シボリコミュニティ福岡 第20回作品展 藍と紋り 観覧者数:253人									
ギャラリーB		九州産業大学 芸術学部 写真映像メディア学科 百瀬ゼミナール 写真展 観覧者数:591人										木曜会作品展 観覧者数:283人																			
ギャラリーC												SEIEN写真 倶楽部作品展 観覧者数:246人																			
ギャラリーD												カヴァレットの 会展 観覧者数:135人																			
ギャラリーE		山尾航也個展 一浮遊する種 観覧者数:612人					リベルテ113終幕展 観覧者数:691人					グランドシニア、 プラザーズ展 観覧者数:256人					突展2022福岡教育大学 美術科58年度生中心 OB有志展 観覧者数:209人														
ギャラリーF		第5回 浜武武士個展 観覧者数:498人																													

7月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
特別展示室		tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:2,120人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:2,556人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:3,683人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:3,018人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:4,532人										
ギャラリーA		シボリ コミュニティ 観覧者数:350人					80オのどっこいしょ! フェルト……造形する布展 観覧者数:329人					第50回 日本の書展 観覧者数:1,079人					第60回記念 日本現代工芸 美術展 福岡巡回展 観覧者数:1,114人					—										
ギャラリーB		木曜会作品展 観覧者数:281人																														
ギャラリーC		SEIEN写真 倶楽部作品展 観覧者数:273人																														
ギャラリーD		カヴァレットの 会展 観覧者数:154人																														
ギャラリーE		グランドシニア、 プラザーズ展 観覧者数:302人					第7回 芸術成就 天本浩義書作展 観覧者数:139人					第62回西日本 フォトコンテスト 入賞作品展 観覧者数:529人																				
ギャラリーF		突展2022福岡教育大学 美術科58年度生中心 OB有志展 観覧者数:525人																														

8月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展示室		tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:5,172人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:6,275人					tupera tuperaの かおてん. 観覧者数:7,718人					—					—											
ギャラリーA		第38回観生会展 観覧者数:327人					藤井勝雲窯 作品展 観覧者数:203人					グループテオ展 観覧者数:667人					Soy FIELD 絵画教室 作品展 観覧者数:796人					第52回青像 グループ写真展 観覧者数:81人											
ギャラリーB		紅茶の絵画 yuko n-life 展 観覧者数:674人					Heart Art in FUKUOKA 2022 観覧者数:660人					親子3人展 観覧者数:855人					よかも 観覧者数:1,435人					第2回福岡地区 正筆会展 観覧者数:196人											
ギャラリーC												私たちの書画展 観覧者数:524人																					
ギャラリーD												柴彩展 観覧者数:343人																					
ギャラリーE		塩島 亮太展 観覧者数:244人					デッサン・水彩画・ 油彩画展 観覧者数:442人					福岡教育大学 福岡県人書作展 観覧者数:513人					第4回MOPあーと展 観覧者数:558人					第27回 九洋展 観覧者数:136人											
ギャラリーF												[空間]写真展 観覧者数:638人					毛筆と マウス 観覧者数:81人																

9月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展示室		—					国宝 鳥獣戯画と 愛らしき日本の美術 観覧者数:2,302人					国宝 鳥獣戯画と 愛らしき日本の美術 観覧者数:6,948人					国宝 鳥獣戯画と 愛らしき日本の美術 観覧者数:7,014人					国宝 鳥獣戯画と 愛らしき日本の美術 観覧者数:11,160人					国宝 鳥獣戯画と 愛らしき日本の美術 観覧者数:3,766人					
ギャラリーA		第52回青像 グループ写真展 観覧者数:98人					第37回 日本の海洋画展 観覧者数:1,811人					第22回さくら会 水彩画展 観覧者数:448人					令和4年景柳会 書道作品展 観覧者数:749人					心象創作 写真展 観覧者数:383人										
ギャラリーB		第2回福岡地区 正筆会展 観覧者数:496人										武蔵野美術大学 校友会 福岡支部展 観覧者数:492人																				
ギャラリーC												バステルアート教室 ラフraf作品展 観覧者数:1,366人					#美食箱 観覧者数:449人															
ギャラリーD		第27回九洋展 観覧者数:286人										エモーショナル レターズ 観覧者数:585人					第8回フォトクラブ niccori写真展 観覧者数:477人					ありか&ともこ 愛をあなたへ 観覧者数:542人										
ギャラリーE																						ならざき水彩画 教室展 観覧者数:442人										
ギャラリーF		毛筆とマウス 観覧者数:207人																														

10月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
特別展示室	国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 観覧者数: 3,126人	国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 観覧者数: 10,683人					国宝 鳥獣戯画と愛らしき日本の美術 観覧者数: 8,307人					—					—															
ギャラリーA	心象創作写真展 観覧者数: 394人	日本水彩画巡回展及び日本水彩画久留米福岡支部展 観覧者数: 1,484人					高取デッサン会人物画展 観覧者数: 621人					佐伯和子の絵画&オリジナルジュエリー展 観覧者数: 513人					福岡市美術連盟展 観覧者数: 1,012人															
ギャラリーB	美術学 九州産業大学芸術学部 観覧者数: 409人						第52回福岡市高齢者美術展 観覧者数: 785人					南北コリアと福岡のともだち展2022 観覧者数: 375人																				
ギャラリーC	ありか&ともこ 観覧者数: 763人						第52回福岡市高齢者美術展 観覧者数: 785人					—																				
ギャラリーD	ならざき 水彩画教室展 観覧者数: 291人						第52回福岡市高齢者美術展 観覧者数: 785人					—																				
ギャラリーE	ありか&ともこ 観覧者数: 763人	—					レインボー展 観覧者数: 1,838人					—																				
ギャラリーF	ならざき 水彩画教室展 観覧者数: 291人	薫風会 仏像彫刻作品展 観覧者数: 966人					ゆう美会作品展 観覧者数: 895人					第6回ひとつぶの空 観覧者数: 562人																				

11月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	火	水	木	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展示室	藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 780人	藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 754人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 557人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 664人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 154人														
ギャラリーA	大濠・舞鶴公園と福岡の自然写真展 観覧者数: 746人	第43回中央区市民文化祭美術作品展 観覧者数: 1,369人					おそらのぞうさん作品展 観覧者数: 720人					第17回福岡文化連盟祭り福岡アートビエンナーレ2022 観覧者数: 1,727人					第42回南区美術展 観覧者数: 1,633人														
ギャラリーB	シルクロードの旅 観覧者数: 1,013人						75周年記念示現会第11回作品展・第8回公募展 観覧者数: 1,006人																								
ギャラリーC	ホアヂャ会展覧会 観覧者数: 1,161人						金曜会作品展 観覧者数: 769人																								
ギャラリーD	九州藍苧会展 観覧者数: 478人						日洋会福岡支部展 観覧者数: 952人																								
ギャラリーE	ホアヂャ会展覧会 観覧者数: 1,161人	—					福岡市医師会文化祭美術展 観覧者数: 189人					第25回石耀展 観覧者数: 185人																			
ギャラリーF	九州藍苧会展 観覧者数: 478人	—					—					—																			

12月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
特別展示室	藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 428人	藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 570人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 528人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 659人					藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 210人															
ギャラリーA	—	第42回南区美術展 観覧者数: 529人					第38回城南区市民アート展 観覧者数: 737人					西区市民美術展 観覧者数: 1,397人					第14回福岡市障がい児者美術展(コアサイドアート) 観覧者数: 804人															
ギャラリーB	—																															
ギャラリーC	—																															
ギャラリーD	—																															
ギャラリーE	福岡市医師会文化祭美術展 観覧者数: 449人	—					—					Osamu Yonamine展 観覧者数: 680人					—															
ギャラリーF	第25回石耀展 観覧者数: 520人	—					—					—					第57回游展 観覧者数: 437人															

1月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜	日	祝	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展示室	—	藤野一友と岡上淑子 観覧者数: 1,340人					—					—					永遠のソール・ライター 観覧者数: 2,243人					永遠のソール・ライター 観覧者数: 2,021人					永遠のソール・ライター 観覧者数: 312人						
ギャラリーA	—	82AP展 観覧者数: 560人					—					令和4年度中央区高齢者作品展 観覧者数: 555人					福岡デザイン専門学校第25回卒業制作展+アジアデザイン交流展 観覧者数: 933人					ファイナート展 観覧者数: 1,488人											
ギャラリーB	—	グッドデザイン九州2022展覧会 観覧者数: 1,730人					第71回福岡市中学校書作品展 観覧者数: 605人																										
ギャラリーC	—	第28回福岡市書道協会展 観覧者数: 978人					現代水墨画 恵回顧展 観覧者数: 540人																										
ギャラリーD	—	豆・美・春・桜・虹 第1回合同作品展 観覧者数: 304人					渡辺知聡展 観覧者数: 580人																										
ギャラリーE	—	—					—					日本空間デザイン賞 日本サインデザイン賞 受賞作品展 観覧者数: 448人					第64回福岡県医師会文化祭美術展 観覧者数: 397人																
ギャラリーF	—	—					—					—					—																

ミュージアムホール等

	ミュージアムホール		アートスタジオ		レクチャールーム		アプローチ広場		ロビー		エスプラナード		合計	
	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数
4月	9	848	12	136	19	260	0	0	0	0	1	8	41	1,252
5月	9	751	14	240	22	302	0	0	1	41	0	0	46	1,334
6月	5	1,771	17	410	21	474	2	240	0	0	1	4	46	2,899
7月	10	763	15	826	18	247	4	10,000	1	30	0	0	48	11,866
8月	12	1,001	10	457	13	135	0	0	0	0	0	0	35	1,593
9月	13	1,067	11	278	20	271	8	10,750	0	0	0	0	52	12,366
10月	13	1,236	16	472	26	318	2	70	4	2,742	0	0	61	4,838
11月	13	1,754	13	478	17	255	1	80	4	1,839	1	40	49	4,446
12月	10	996	7	111	17	234	0	0	1	30	1	0	36	1,371
1月	7	645	4	137	10	129	0	0	0	0	0	0	21	911
2月	12	1,176	4	178	13	256	0	0	0	0	0	0	29	1,610
3月	9	844	8	151	20	438	0	0	0	0	1	61	38	1,494
合計	122	12,852	131	3,874	216	3,319	17	21,140	11	4,682	5	113	502	45,980

※エスプラナードの利用者数について、令和4年12月1件はロビーと同利用者のため利用人数はロビーに反映

2月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
特別展示室	永遠のソールライター 観覧者数:2,669人					永遠のソールライター 観覧者数:3,041人					永遠のソールライター 観覧者数:3,034人					永遠のソールライター 観覧者数:4,244人					永遠のソールライター 観覧者数:635人								
ギャラリーA	ファインアート展 観覧者数:2,007人					第72回福岡市中学校美術展 観覧者数:7,286人					フォトクラブ四季彩写真展 観覧者数:637人					第54回九州産業大学造形短期大学部卒業制作展 観覧者数:1,692人					第48回西日本書美術展 観覧者数:379人								
ギャラリーB											福岡県高文連第36回デザインコンペ第33回絵はがきコンクール合同展 観覧者数:710人																		
ギャラリーC											[ジュエリーのこれから]展2023 観覧者数:622人																		
ギャラリーD											博多工業高校インテリア課卒業制作展 観覧者数:616人																		
ギャラリーE																													
ギャラリーF																													

3月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展示室	永遠のソールライター 観覧者数:4,352人					アジアデジタルアート大賞展 観覧者数:1,112人					二科展 観覧者数:3,261人					—					第54回福岡市美術展 観覧者数:919人											
ギャラリーA	第48回西日本書美術展 観覧者数:2,294人					第75回二紀展福岡巡回展 観覧者数:2,002人					オルネフラワー協会作品展 観覧者数:1,081人					大島陸 葦ペン画展 観覧者数:662人					第54回福岡市美術展 観覧者数:663人											
ギャラリーB											福岡市東区展 観覧者数:701人																					
ギャラリーC											Arte-mico 作品展 観覧者数:914人																					
ギャラリーD											野の花庭の花を描く講座発表展 観覧者数:764人																					
ギャラリーE											Freestyle photo club巡回展 観覧者数:878人																					
ギャラリーF																																

近現代美術室B	FaN Week特別展示 コレクターズ アートと生きる四人 会期:令和4年9月23日(金・祝)～10月10日(月・祝) 4人のアートコレクター(家入一真氏、榎本二郎氏、小笠原治氏、熊谷正寿氏)が所有する作品を、コレクターの思いとともに紹介した。
---------	---

令和4年度月別観覧者数

室名	コレクション展		特別展		貸館展		総数	
	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催延べ日数(日)	観覧者数(人)
4月	26	4,554	7	4,466	76	9,978	109	18,998
5月	26	10,543	26	19,471	69	8,537	121	38,551
6月	26	5,641	17	19,330	68	8,494	111	33,465
7月	27	8,031	27	15,909	54	5,605	108	29,545
8月	26	10,003	18	18,364	104	9,848	148	38,215
9月	24	12,199	22	31,190	73	9,228	119	52,617
10月	26	14,439	14	22,116	127	10,964	167	47,519
11月	26	9,392	26	2,909	66	10,478	118	22,779
12月	23	5,208	23	2,395	42	5,553	88	13,156
1月	23	8,374	5	1,340	80	12,709	108	22,423
2月	24	9,820	0	0	66	27,572	90	37,392
3月	27	9,266	0	0	72	21,663	99	30,929
合計	304	107,470	185	137,490	897	140,629	1,386	385,589

美術館協議会委員

50音順・敬称略・役職名は令和4年度のもの
任期 令和5年3月1日から令和7年2月28日まで

会長	浦上 雅司	福岡大学人文学部教授
副会長	植野 かおり	公益財団法人立花家史料館館長
学校教育関係者	片山 寛詞	福岡市立春吉中学校校長
	萬 順	福岡市立千代小学校校長
社会教育関係者	尾石 静雄	福岡市公民館館長会会長
	篠隈 明美	福岡市七区男女共同参画協議会代表
	松尾 さち	JOY倶楽部職業指導員
家庭教育関係者	重永 侑紀	特定非営利活動法人子どもNPOセンター福岡代表理事
学識経験者	李 善姬	韓国語講師
	黒岩 俊哉	九州産業大学芸術学部教授
	瀬戸口 朗子	美術作家
	千 相哲	九州産業大学副学長
	山内 泰	NPO法人ドネルモ代表理事

収集審査員

(50音順・敬称略・役職名は令和4年度のもの)

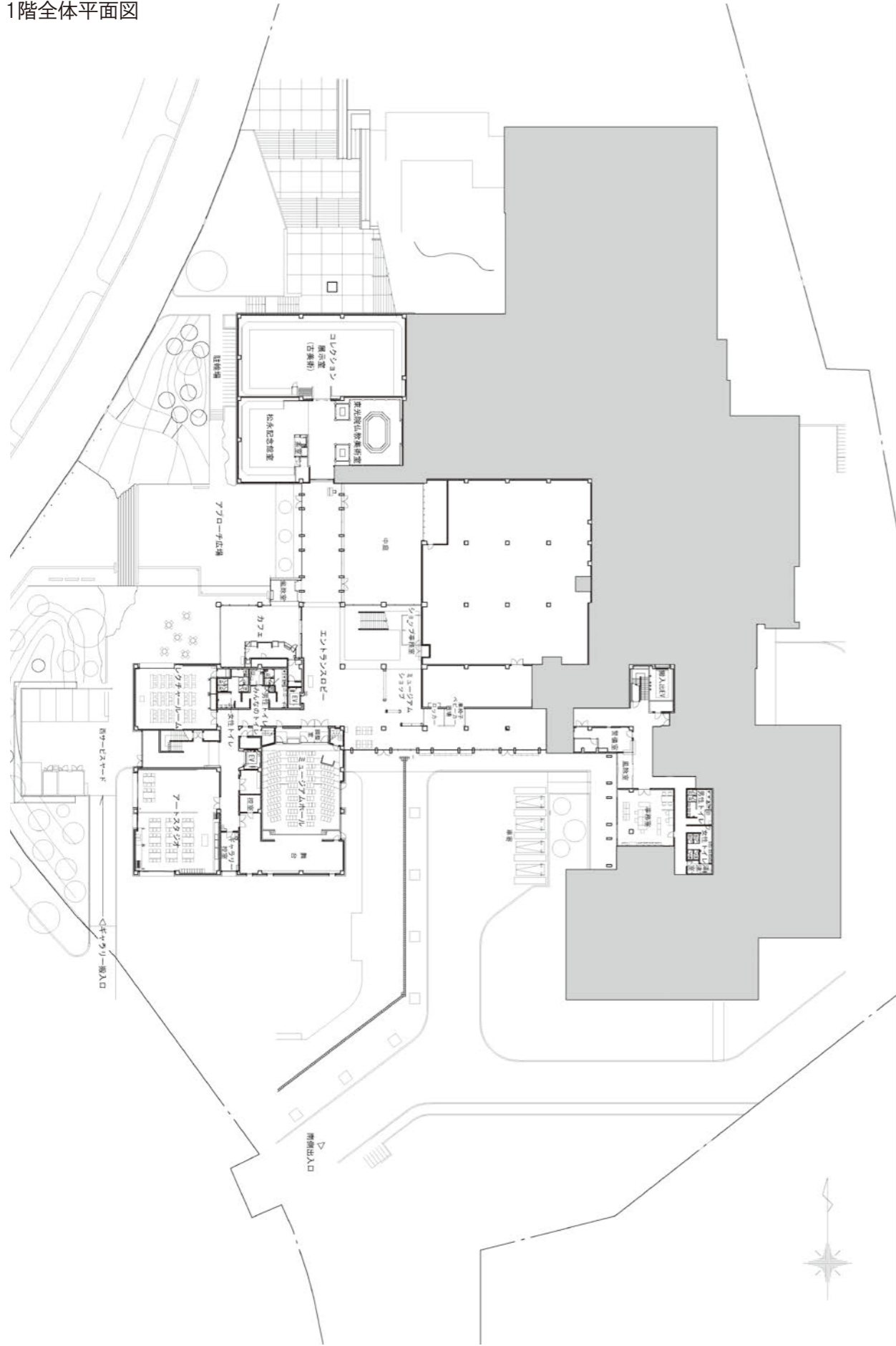
近現代美術	魚里 洋一	福岡県立美術館副館長
	大日方 欣一	九州産業大学芸術学部 写真・映像メディア学科教授
	島 敦彦	国立国際美術館館長
古美術	植野 かおり	立花家史料館館長
	宮崎 もも	大和文華館学芸部課長

職員

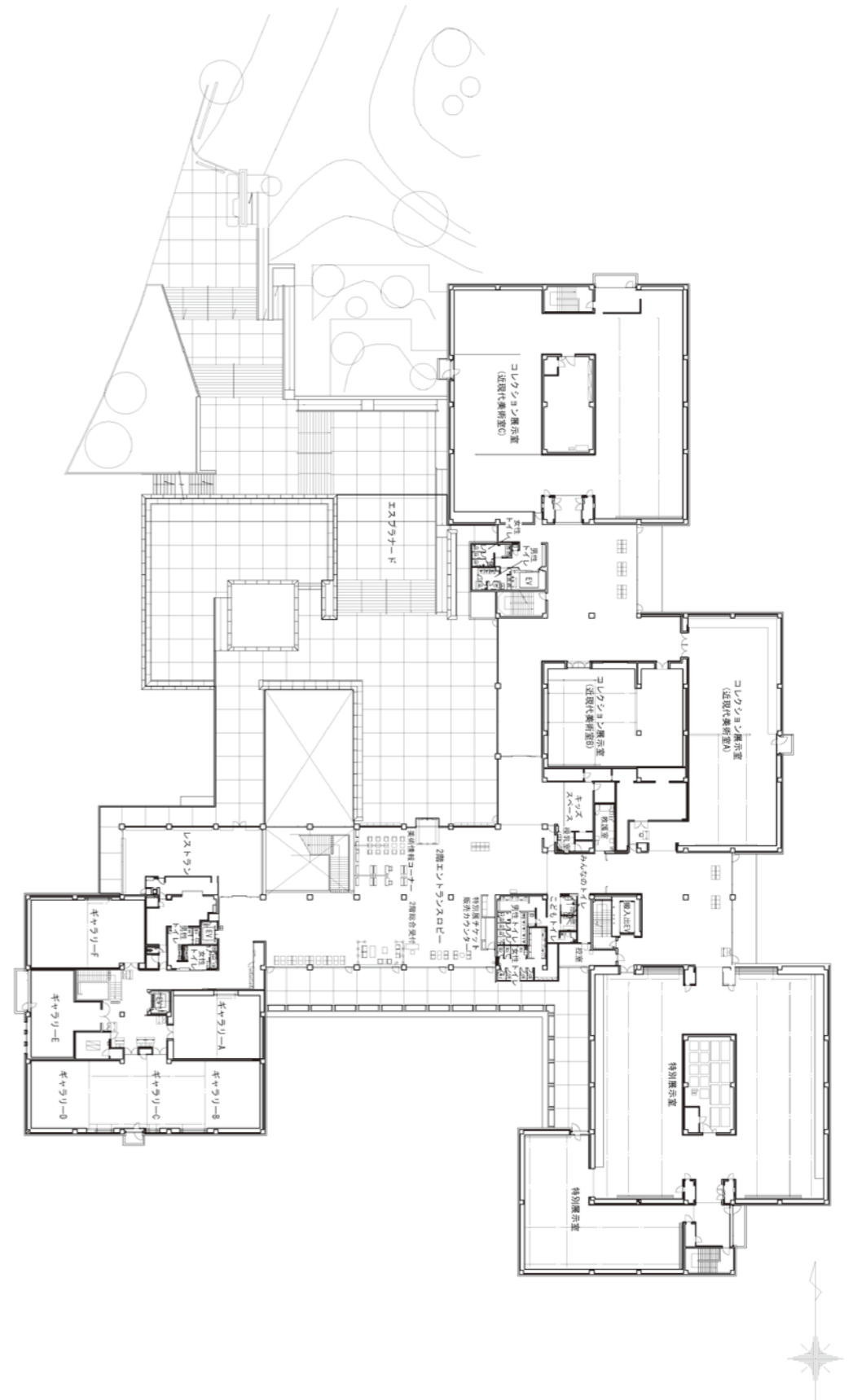
総館長	中山 喜一郎
館長	岩永 悦子
事業管理課長	金子 りか
事業管理係長	吉谷 圭
	道下 志保
	長嶋 みゆき
学芸課長	美術館長事務取扱
学芸係長	山木 裕子
	正路 佐知子
	渡抜 由季
	忠 あゆみ
主任学芸主事	鬼本 佳代子
	崎田 明香
主任学芸主事	後藤 恒
	宮田 太樹
会計年度任用職員	田實 智子
会計年度任用職員	太田 早耶
会計年度任用職員	中務 美紀
会計年度任用職員	中原 千代子
会計年度任用職員	八並 美咲

資料

福岡市美術館
1階全体平面図



福岡市美術館
2階全体平面図



<div><div></div>施設概要</div>

1. 建築概要

所在地	福岡県福岡市中央区大濠公園 1 番 6 号
設計	〔新築〕 前川國男建築設計事務所 <p>〔改修〕 福岡アートミュージアムパートナーズ(株) (㈱梓設計)</p>
施工	〔新築〕 戸田建設(株)ほか <p>〔改修〕 福岡アートミュージアムパートナーズ(株) (㈱大林組)</p>
工期	〔新築〕 1978 (昭和53)年 1月〜 1979 (昭和54)年 10月 <p>〔改修〕 2017 (平成29)年 6月〜 2018 (平成30)年 9 月</p>
敷地面積	25,845.71㎡
建築面積	8,639.28㎡
延床面積	14,713.66㎡ (本館14,630.38㎡)
各階面積	1 階：8,271.82㎡ (付属棟含む) <p>2 階：6,242.24㎡</p> <p>屋上階：199.60㎡</p>
最高高さ	15.00m
主体構造	鉄筋コンクリート造
主要な外部仕上げ	外壁：磁器質タイル打ち込みPC板 <p>屋根：耐候性鋼板/瓦葺葺き/フッ素樹脂塗装</p> <p>床：器室タイル</p>

主要施設

■展示室
東光院仏教美術室（1 階）
古美術企画展示室（1 階）
松永記念館室（1 階）
近現代美術室 A（2 階）
近現代美術室 B（2 階）
近現代美術室 C（2 階）
特別展示室（2 階）床面積：1,054㎡、有効展示壁面長：327m、天井高：5 m・3.9m
ギャラリー A（2 階）床面積：100㎡、有効展示壁面長：51.12m、天井高：4 m
ギャラリー B（2 階）床面積：78.5㎡、有効展示壁面長：40.78m、天井高：4 m
ギャラリー C（2 階）床面積：110㎡、有効展示壁面長：39.98m、天井高：4 m
ギャラリー D（2 階）床面積：81㎡、有効展示壁面長：41.18m、天井高：4 m
ギャラリー E（2 階）床面積：82㎡、有効展示壁面長：40.79m、天井高：4 m
ギャラリー F（2 階）床面積：139㎡、有効展示壁面長：61.17m、天井高：4 m

■その他施設
ミュージアムホール（1 階）
面積：288.2㎡
定員：180席・車椅子席 2 席
付帯：ホール控室、音響機器、照明設備
用途：講演会、上映会、演劇、コンサートなど

アートスタジオ（1 階）
面積：209.82㎡
天井高：3 m
定員：72席（6 人掛け工作台 12台）
付帯：流し台、大型鏡、可動壁
用途：ワークショップ、パフォーマンス、レクチャー、トークショーなど
レクチャールーム（1 階）
面積：124.95㎡
天井高：3 m
定員：54席（スクール形式 3 人掛け）、長机18台
付帯：スクリーン、流し台、音響機器
用途：講座、研修、ワークショップなど

<div><div></div>関連法規</div>

○福岡市美術館条例

	昭和54年 3 月 8 日
	条例第38号
改正	昭和59年 3 月29日条例第41号
	平成元年 3 月31日条例第34号
	平成 7 年 3 月 9 日条例第44号
	平成10年10月 1 日条例第47号
	平成14年 3 月28日条例第38号
	平成24年 3 月29日条例第38号
	平成30年 3 月29日条例第40号
	令和 5 年 3 月20日条例第35号

(設置)
第 1 条　市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福岡市美術館（以下「美術館」という。）を福岡市中央区大濠公園に設置する。
(事業)
第 2 条　美術館は、次の各号に掲げる事業を行う。 <p>(1)　美術作品その他の美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）を収集し、保管し及び展示すること。</p> <p>(2)　美術に関する調査及び研究を行うこと。</p> <p>(3)　美術に関する展覧会、講演会、講習会等を開催し及びその奨励を行うこと。</p> <p>(4)　施設の利用に関すること。</p> <p>(5)　前各号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的達成に必要なこと。</p>
(職員)
第 3 条　美術館に館長その他必要な職員を置く。
(観覧料)
第 4 条　美術館が主催して展示する美術作品等を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める額の観覧料を納付しなければならない。（利用の許可）
第 5 条　美術館の施設（別表第 2 に掲げるものに限る。）を専用的に利用しようとする者は、教育委員会規則で定めるところにより、教育委員会の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「許可利用者」という。）が、許可を受けた事項を変更しようとするときもまた同様とする。
2　教育委員会は、前項の許可に際して、美術館の管理上必要な条件を付すことができる。（平成30条例40・一部改正）
(利用の制限)
第 6 条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、美術館の利用を拒み、又は前条に規定する許可をせず、若しくは既にした許可を取り消すことができる。 <p>(1)　利用者（利用しようとする者を含む。以下本条において同じ。）が美術館の設置の目的に反する利用をし、又はそのおそれがあるとき。</p> <p>(2)　利用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反し、又はそのおそれがあるとき。</p> <p>(3)　前 2 号に掲げるもののほか、美術館の管理上支障があると認められるとき。</p> <p>2　前項の措置によつて利用者が損害を受けても、本市はその責めを負わない。</p>

(入館の制限)
第 7 条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。 <p>(1)　他人に迷惑をかけ、若しくは展示品又は施設設備等を損傷するおそれがあると認められるもの</p> <p>(2)　管理上の指示又は指導致に従わないもの</p> <p>(3)　管理上支障があると認められるもの</p> <p>(利用する権利の譲渡等の禁止)</p>
第 8 条　許可利用者は、美術館を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。（平成30条例40・一部改正）
(平成30条例40・一部改正）
(特別な設備)
第 9 条　許可利用者は、美術館に特別な設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、教育委員会が特に認めたときは、この限りでない。
2　教育委員会は、管理上必要があると認めるときは、許可利用者の負担において特別な設備をさせることができる。
3　前 2 項に規定する設備は、利用許可期限満了前に許可利用者の負担において撤去し、原状に復さなければならない。
4　許可利用者が前項に規定する撤去を行わないときは、教育委員会がこれを行い、その費用を許可利用者から徴収する。（平成30条例40・一部改正）
(使用料)
第10条　次の各号に掲げる者からは、当該各号に定める額の使用料を徴収する。 <p>(1)　許可利用者　別表第 2 に定める額の使用料</p> <p>(2)　駐車場を利用する者　別表第 3 に定める額の駐車場使用料</p> <p>2　前項第 1 号の使用料は、前納とする。</p> <p>3　第 1 項第 2 号の駐車場使用料は、駐車場を利用した者が出庫するときに徴収する。（平成30条例40・一部改正）</p> <p>(撮影等の許可及び手数料)</p>
第11条　学術研究等のため、美術館に展示され、又は所蔵されている美術作品等の撮影、模写、模造等しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
2　前項に規定する許可を受けた者からは、1 点 1 回につき2,200円の範囲内で教育委員会規則で定める額の手数料を徴収する。（平成 7 条例44・一部改正）
(観覧料等の不還付)
第12条　既納の観覧料、使用料及び手数料（以下「観覧料等」という。）は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認める場合は、その全部又は一部を還付することができる。（観覧料等の減免）
第13条　教育委員会は、特別の理由があると認める場合は、観覧料等を減免することができる。（利用者の管理義務）
第14条　利用者は、利用期間中その利用に係る美術館の施設、付属設備及び図書資料等を善良な管理者の注意をもつて管理しなければならない。（損害賠償）
第15条　利用者が、美術館の施設、付属施設、展示品又は図書資料等を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。（立入り）
第16条　許可利用者は、美術館の管理の業務に従事する者が職務のため当該利用に係る施設に立ち入ろうとするときは、これを拒むことができない。（平成30条例40・一部改正）

(美術館協議会)

第17条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条の規定により、美術館に美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、美術館及び福岡アジア美術館条例（平成10年福岡市条例第47号）により設置された福岡アジア美術館の運営に関し、それぞれの館長の諮問に応じるとともに、これらの館長に対して意見を述べるものとする。

3 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 協議会の委員の定数は、20人以内とする。

5 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平成10条例47・平成24条例38・令和5条例35・一部改正)

(委任)

第18条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、教育委員会規則で定める。

(昭和54年教規則第11号により昭和54年11月3日から施行)

(福岡市美術館条例の廃止)

2 福岡市美術館条例（昭和53年福岡市条例第37号）は、廃止する。(施行日前における許可等)

3 第1項の規定に基づく教育委員会規則が公布されたときは、この条例の施行の日前においても、この条例の施行の日以後の美術館の利用について教育委員会規則で定めるところにより利用の許可をし、及び使用料を徴収することができる。

附 則（昭和59年3月29日条例第41号）

(施行期日)

1 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成元年3月31日条例第34号）

(施行期日)

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成7年3月9日条例第44号）

(施行期日)

1 この条例は、平成7年5月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成10年10月1日条例第47号）抄

(施行期日)

1 この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成10年教委規則第7号により平成11年1月1日から施行)

附 則（平成14年3月28日条例第38号）

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月29日条例第38号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月29日条例第40号）

(施行期日)

1 この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成30年教委規則第14号により平成31年3月21日から施行)

(施行日前における利用の許可等)

2 前項の規定に基づく教育委員会規則が公布されたときは、この条例の施行の日前においても、同日以後の美術館（この条例による改正後の福岡市美術館条例（以下「改正後の条例」という。）別表第2に掲げる施設に限る。）の利用について、改正後の条例の規定の例により許可をし、及び使用料を徴収することができる。

附 則（令和5年3月20日条例第35号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1

(平成元条例34・平成14条例38・一部改正)

美術作品等観覧料

区分		金額	
		個人	20人以上の団体
常設展示観覧	一般	200円	1人につき 150円
	大学生・高校生	150円	1人につき 100円
特別展示観覧		1人につき2,000円以内で教育委員会が定める額	

備考

1 常設展示観覧とは、美術館が平常的に展示する美術作品等の観覧をいい、特別展示観覧とは、美術館が特別に展示する美術作品等の観覧をいう。

2 一般とは、大学生・高校生及び中学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第2

(昭和59条例41・平成元条例34・平成7条例44・平成30条例40・一部改正)

1 展示室使用料

区分	単位	金額(円)
特別展示室		36,600
ギャラリー	A	3,700
	B	2,700
	C	3,700
	D	2,700
	E	2,700
	F	4,600

2 ホール等使用料

区分	単位	金額(円)
レクチャールーム	1時間につき	1,100
アートスタジオ		2,200
ミュージアムホール		2,200

3 ロビー等使用料

区分	単位	金額(円)
ロビー	1日1平方メートルに	200
エスプラナード	つき	200
アプローチスペース		200

備考

1 許可利用者が入館者から入場料を徴収する場合の使用料の額は、この表の金額の2倍の額とする。

2 使用料の算定に当たつて用いる日数又は時間数に1日又は1時間未満の端数があるときは、当該端数をそれぞれ1日又は1時間とみなす。

3 ギャラリー B又はギャラリー Dに係る許可利用者は、ギャラリー Cの一部について第5条第1項の許可を受けることができるものとする。この場合において、ギャラリー Cに係る使用料の額は、この表の金額に2分の1を乗じて得た額とする。

4 付属設備の使用料の額は、教育委員会規則で定める。

別表第3

(平成30条例40・追加)

駐車場使用料

区分	単位	金額(円)
普通自動車	1台1回につき	200
準中型自動車	1時間までごとに	200
中型自動車	1台1回につき	2,000
大型自動車	1日までごとに	2,000

備考 普通自動車とは道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条に規定する普通自動車を、準中型自動車とは同条に規定する準中型自動車を、中型自動車とは同条に規定する中型自動車を、大型自動車とは同条に規定する大型自動車をいう。

○福岡市美術館条例施行規則

昭和54年7月2日
教育委員会規則第12号

改正 昭和59年3月31日教規則第3号

昭和61年3月31日教規則第2号

昭和63年3月31日教規則第15号

平成元年3月31日教規則第9号

平成3年3月28日教規則第7号

平成5年3月29日教規則第1号

平成5年3月29日教規則第8号

平成5年6月28日教規則第13号

平成6年3月31日教規則第13号

平成7年3月30日教規則第17号

平成8年3月28日教規則第7号

平成9年3月31日教規則第5号

平成12年3月30日教規則第1号

平成14年3月28日教規則第10号

平成14年7月1日教規則第12号

平成17年3月31日教規則第9号

平成17年7月14日教規則第12号

平成18年10月30日教規則第9号

平成19年3月29日教規則第8号

平成19年6月28日教規則第10号

平成22年3月29日教規則第2号

平成24年3月29日教規則第8号

平成27年10月8日教規則第18号

平成29年3月30日教規則第6号

平成30年3月29日教規則第5号

平成30年10月1日教規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市美術館条例（昭和54年福岡市条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条及び第3条 削除

(平成24教規則8)

(職員)

第4条 福岡市美術館（以下「美術館」という。）に館長及び学芸課長を置く。

2 前項の職員のほか、特に必要なときは、その他の職員を置くことができる。

3 館長及び学芸課長は、職員のうちから命じる。

4 館長は、上司の命を受けて、美術館の事務を統理し、所属職員を指揮監督する。

5 学芸課長は、上司の命を受けて、美術館の事務を掌理し、及び処理する。

6 その他の職員は、上司の命を受けて分担する事務を処理する。(平成24教規則8・全改)

(職務権限の代行)

第5条 館長に事故がある場合又は館長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、学芸課長が館長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、教育次長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により、館長の職務権限を代理して行う者がいないときは、館長の職務権限は、教育次長が行う。(平成24教規則8・一部改正)

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時30分まで(毎年7月から10月までの間の各月の金曜日及び土曜日（以下「特

例日」という。)においては、午後8時まで)とする。ただし、入館は、午後5時まで(特例日においては、午後7時30分まで)とする。

2 次の各号に掲げる施設の供用時間は、当該各号に定めるとおりとする。

(1) 条例別表第2 2 ホール等使用料の表に掲げる施設 午前9時30分から午後9時まで

(2) 駐車場 午前9時から午後9時まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育長が必要と認める場合は、開館時間又は前項第1号の施設の供用時間(以下「開館時間等」という。)を変更することができる。

(平成5教規則13・平成9教規則5・平成30教規則5・平成30教規則15・一部改正)

(休館日)

第7条 美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、教育長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 毎週月曜日(その日が休日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日をいう。以下同じ。)に当たるときは、その日後において最初の休日でない日)

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(平成9教規則5・平成17教規則9・平成30教規則15・一部改正)

(展示室等の利用)

第8条 条例第5条第1項の規定により美術館の施設の利用の許可を受けようとする者は、福岡市美術館施設利用許可申請書(様式第1号)により教育長に申請しなければならない。

2 前項の申請は、展示室については、利用しようとする日が1月1日から6月30日までの間である場合にあっては、当該利用しようとする日の属する年の前年の7月31日までに、7月1日から12月31日までの間である場合にあっては、当該利用しようとする日の属する年の1月31日までに行わなければならない。ただし、教育長が必要と認める場合は、この限りでない。

(平成30教規則5・一部改正)

(利用の許可)

第9条 教育長は、美術館の施設の利用を許可したときは、福岡市美術館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。

(利用の取止め)

第10条 美術館の施設の利用の許可を受けた者(以下「許可利用者」という。)が、利用の取止めをしようとする場合には、あらかじめ福岡市美術館施設利用取止め届(様式第3号)を教育長に提出しなければならない。

(平成30教規則5・一部改正)

(図書の利用)

第11条 美術館の図書の利用に関し必要な事項については、館長が別に定める。

(利用時間)

第12条 美術館の利用時間には、準備及び後片付けに要する時間を含むものとする。

(開館時間等以外の利用)

第13条 美術館の開館時間等以外及び休館日の利用は、美術館の運営上支障がない場合にのみ許可する。

(平成30教規則5・一部改正)

(撮影等の許可)

第14条 条例第11条第1項の規定により美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)の撮影、模写、模造等(以下「撮影等」という。)の許可を受けようとする者は、撮影等許可申請書(様式第4号)により館長に申請しなければならない。

2 館長は、前項の許可をしたときは、撮影等許可書(様式第5号)

を交付するものとする。

3 撮影等の許可は、観覧者の観覧に支障がなく、かつ、美術作品等の管理上支障がないと認められる場合にのみ許可するものとする。

(平成24教規則8・一部改正)

(入館者及び許可利用者の心得)

第15条 美術館の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 建物、付属設備又は美術作品等その他の備品を汚損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 他の入館者に迷惑をかけないこと。

(3) 所定の場所以外で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(4) 危険物又は動物を持ち込まないこと。

(5) 許可なくして物品を販売し、又は展示しないこと。

(6) 館内を不潔にしないこと。

(7) 許可なくして美術作品等の撮影又は模写をしないこと。

(8) 施設、設備等の利用を終えたときは、これを原状に復すこと。

(9) 所定の場所以外に出入りしないこと。

(10) 前各号に掲げるもののほか、管理上の必要から美術館の管理の業務に従事する者が行う指示又は指導に従うこと。

2 許可利用者は、前項に規定するもののほか、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 収容人員は、当該施設の所定の人員を超えないこと。

(2) 条例第7条各号のいずれかに該当する者に対しては、当該施設への入場を拒絶し、又は退場を命ずること。

(3) 火災、盗難、人身事故その他の事故防止に努めること。

(4) 当該施設への入場者に前項に規定する事項を守らせること。

(平成30教規則5・一部改正)

(利用後の点検)

第16条 許可利用者は、施設、設備、備品等の使用を終わつたときは、美術館の管理の業務に従事する者の点検を受けなければならない。

(平成30教規則5・一部改正)

(付属設備の使用料)

第17条 美術館の付属設備の使用料の額は、別表第1のとおりとする。

(撮影等の手数料)

第18条 条例第11条第2項に規定する手数料の額は、別表第2のとおりとする。

(使用料及び手数料の徴収)

第19条 条例第10条第1項第1号の使用料は、利用の開始までに徴収する。

2 手数料は、撮影等の開始までに徴収する。

(平成6教規則13・平成30教規則5・一部改正)

第19条の2 駐車場を利用する者は、自動車を入庫させるときに、駐車券(様式第2号の2)の交付を受けなければならない。

2 駐車場を利用した者が自動車を出庫させるときは、前項の規定に基づき交付を受けた駐車券により、条例第10条第1項第2号の駐車場使用料(以下「駐車場使用料」という。)を清算しなければならない。

(平成30教規則5・追加)

(使用料の還付)

第20条 条例第12条ただし書の規定による使用料の還付は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。

(1) 天災地変その他不可抗力により利用できなくなつたとき 全額

(2) 許可利用者(展示室の許可利用者を除く。)が利用日の10日

前までに利用取止め届を提出したとき 全額

(3) 許可利用者が利用日の5日前(展示室の許可利用者については3月前)までに利用取止め届を提出したとき 5割相当額

(平成30教規則5・一部改正)

(観覧料の減免)

第21条 条例第13条の規定による観覧料の減免は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。

(1) 義務教育諸学校の児童又は生徒の引率者が当該義務教育諸学校の教育計画に基づき常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額

(2) 障がい者(療育手帳、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)に規定する身体障害者手帳又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)に規定する精神障害者保健福祉手帳(以下「療育手帳等」という。)の交付を受けている者をいう。以下同じ。)又は特定医療費(指定難病)受給者証、特定疾患医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証若しくは小児慢性特定疾病医療受給者証(以下「医療受給者証等」という。)の交付を受けている者が常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額

(3) 障がい者の介護者が常設展示を観覧するとき 介護者1人の当該観覧料の全額

(4) 市内に居住する65歳以上の者が常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額

(5) 美術館の入館者が国民の祝日に関する法律第2条に規定する文化の日に常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額

(6) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認めるとき 教育長が必要と認める額

2 前項第1号又は第6号の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、福岡市美術館観覧料減免申請書(様式第6号)により教育長に申請しなければならない。ただし、教育長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 観覧料の減免を受けようとする者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める書類を美術館の管理の業務に従事する者に提示しなければならない。

(1) 第1項第2号の規定により減免を受ける場合 療育手帳等又は医療受給者証等

(2) 第1項第4号の規定により減免を受ける場合 本市が発行するシルバー手帳又は官公署が発行する証明書等(本人の氏名、住所及び生年月日が記載されているものに限る。)

(昭和59教規則3・追加、昭和63教規則15・平成8教規則

7・平成14教規則10・平成14教規則12・平成17教規則9・平成17教規則12・平成24教規則8・平成27教規則18・平成29教規則6・平成30教規則5・一部改正)

(使用料の減免)

第22条 条例第13条の規定による使用料(駐車場使用料を除く。)の減免は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。

(1) 本市が主催し、又は経費の一部を負担して共催する行事に利用するとき 全額

(2) 本市が経費の一部を負担して後援する行事に利用するとき 5割相当額

(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関がその行事に利用するとき 全額

(4) 18歳未満の者を主体とする団体が利用するとき 5割相当額

(5) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認めるとき 教育長が必要と認める額

2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福岡市美術館使用料減免申請書(様式第7号)により教育長に申請しなければならない。ただし、本市が主催する行事に利用する場合は、

この限りでない。

(昭和59教規則3・追加、平成30教規則5・一部改正)

(駐車場使用料の減免)

第22条の2 次に掲げる自動車に係る駐車場使用料は、全額を免除するものとする。

(1) 本市の公用自動車

(2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関がその行事のために利用する自動車

(3) 障がい者又は医療受給者証等の交付を受けている者が運転し、又は同乗する自動車

(4) 前3号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認める自動車

2 前項第3号の規定により駐車場使用料の減免を受けようとする者は、療育手帳等又は医療受給者証等を美術館の管理の業務に従事する者に提示しなければならない。

(平成30教規則5・追加)

(美術館協議会の会長及び副会長)

第23条 条例第17条に規定する美術館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(昭和59教規則3・旧第21条繰下)

(会議)

第24条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(昭和59教規則3・旧第22条繰下)

(委任)

第25条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、教育長が定める。

(昭和59教規則3・旧第23条繰下)

附 則

(施行期日)

1 この規則は、昭和54年11月3日から施行する。ただし、第3項の規定は、公布の日から施行する。(福岡市美術館条例施行規則の廃止)

2 福岡市美術館条例施行規則(昭和53年福岡市教育委員会規則第14号)は、廃止する。(施行日前における許可等)

3 条例附則第3項の規定による条例の施行の日前における条例の施行の日以後の美術館の利用の許可及び使用料の徴収については、次の各号の定めるところによる。

(1) 美術館の施設の利用の許可については、条例第5条及び第6条並びにこの規則第8条第1項及び第9条の規定の例による。

(2) 使用料の徴収については、条例第4条、第10条、第12条及び第13条並びにこの規則第17条、第19条第1項及び第20条の規定の例による。

附 則(昭和59年3月31日教規則第3号)

(施行期日)

1 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)前に施行日以後の付属設備の利用又は美術作品等の撮影等について許可を受け、当該利用又は撮影等に係る使用料及び手数料を利用の開始又は撮影等の開始までに納付している者

の当該使用料及び手数料の額については、なお従前の例による。

附 則 (昭和61年 3月31日教規則第2号)

この規則は、昭和61年 4月 1日から施行する。

附 則 (昭和63年 3月31日教規則第15号)

(施行期日)

1 この規則は、昭和63年 4月 1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の福岡市立今宿野外活動センター条例施行規則第12条、福岡市立少年科学文化会館条例施行規則第15条の3及び福岡市美術館条例施行規則第21条第3項中「シルバー手帳」とあるのは、当分の間、「シルバー手帳若しくは老人福祉手帳」とする。

附 則 (平成元年 3月31日教規則第9号)

この規則は、平成元年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成3年 3月28日教規則第7号)

この規則は、平成3年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成5年 3月29日教規則第1号)

この規則は、平成5年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成5年 3月29日教規則第8号)

(施行期日)

1 この規則は、平成5年 4月 1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正前の福岡市教育委員会規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則 (平成5年 6月28日教規則第13号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成6年 3月31日教規則第13号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年 3月30日教規則第17号)

(施行期日)

1 この規則は、平成7年 4月 1日から施行する。ただし、別表第1及び別表第2の改正規定並びに次項の規定は、平成7年 5月 1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、平成7年 5月 1日以前に同日以後の付属設備の利用又は美術作品等の撮影等について許可を受け、当該利用に係る使用料又は撮影等に係る手数料を納付している者の当該使用料及び手数料の額については、なお従前の例による。

附 則 (平成8年 3月28日教規則第7号)

この規則は、平成8年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成9年 3月31日教規則第5号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成12年 3月30日教規則第1号)

この規則は、平成12年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成14年 3月28日教規則第10号)

この規則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成14年 7月 1日教規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成17年 3月31日教規則第9号)

この規則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成17年 7月14日教規則第12号)

(施行期日)

1 この規則は、平成17年 7月15日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正前の福岡市教育委員会規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則 (平成18年10月30日教規則第9号)

この規則は、平成18年11月 1日から施行する。

附 則 (平成19年 3月29日教規則第8号)

この規則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成19年 6月28日教規則第10号)

この規則は、平成19年 7月 1日から施行する。

附 則 (平成22年 3月29日教規則第2号)

この規則は、平成22年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成24年 3月29日教規則第8号)

この規則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成27年10月 8日教規則第18号)

この規則は、平成27年11月 1日から施行する。

附 則 (平成29年 3月30日教規則第6号)

この規則は、平成29年 4月 1日から施行する。

附 則 (平成30年 3月29日教規則第5号)

(施行期日)

1 この規則は、福岡市美術館条例の一部を改正する条例(平成30年福岡市条例第40号)の施行の日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正前の福岡市美術館条例施行規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則 (平成30年10月 1日教規則第15号)

(施行期日)

1 この規則は、平成31年 3月21日から施行する。

(施行日前における利用の許可等)

2 この規則の公布の日以後においては、この規則の施行の日前においても、同日以後の美術館の付属設備の利用について、この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則の規定の例により許可をし、及び使用料を徴収することができる。

別表第1

(昭和59教規則3・平成7教規則17・平成30教規則15・一部改正)

付属設備使用料

種別	区分	単位	金額(円)
展示設備	可動陳列ケース	1台1日	330
	スライド映写機	一式1時間	440
映写設備	8ミリ映写機	一式1時間	440
	16ミリ映写機	一式1時間	770
	プロジェクター	1台1時間	720
	書画カメラ	1台1時間	440
	ブルーレイプレイヤー	1台1時間	200
音響照明設備	スポットライト	一式1時間	220
	マイクロホン	一式1時間	220
	メモリーオーディオプレイヤー	1台1時間	200

備考 付属設備の使用時間に1時間未満の端数があるときは、これを切り上げる。

別表第2

(昭和59教規則3・平成7教規則17・一部改正)

撮影等手数料

区分		金額(円)	備考
撮影	モノクローム	A	220
		B	1,650
	カラー	A	440
		B	2,200
模写、模造		1,650	
熟覧		330	

様式第1号

福岡市美術館施設利用許可申請書			
(宛先)福岡市教育委員会教育長		申請者 所在地	年 月 日
		団体名	
		代表者	
		(電話)	()
次のとおり福岡市美術館の施設を利用したいので、許可を申請します。 なお、利用に際しては、福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従います。			
利用する施設		会場責任者氏名	(電話) ()
利用期間	展示室	年 月 日から 年 月 日まで	搬入 (時 分から 時 分まで)
	その他の施設	年 月 日(曜) 時 分から 年 月 日(曜) 時 分まで	展示 月 日から 月 日まで 搬出 (時 分から 時 分まで)
利用目的	催物の名称		
入場料	有料 (大人 円、学生 円、小人 円)	無料	入場者見込 延べ 人
館内での頒布物	有(有料・無料) 無		
共催	後援		
利用する付属設備	1 () 3 () 5 () 2 () 4 () 6 ()		
使用料	施設 円	付属設備 円	計 円
(年度)			

(注) 1 利用期間には、搬入、搬出の日も含まれます。
2 太枠線内のみ記入してください。

様式第2号

福岡市美術館施設利用許可書		第 号
様		年 月 日
福岡市教育委員会教育長		国
年 月 日申請の福岡市美術館の施設の利用については、次のとおり許可します。		
利用する施設		
利用期間	展示室	年 月 日から 年 月 日まで
	その他の施設	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
利用目的		
催物の名称		
利用する付属設備	1 () 3 () 5 () 2 () 4 () 6 ()	
留意事項	1 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。 2 搬入及び搬出は、次の日時に行ってください。 搬入 年 月 日 時 分から 時 分まで 搬出 年 月 日 時 分から 時 分まで	

様式第2号の2

入 月 日 時 分 出 月 日 時 分
駐車券【兼料金票】 福岡市美術館専用駐車場

様式第3号

福岡市美術館施設利用取止め届			
		年 月 日	
(宛先)福岡市教育委員会教育長			
申請者 所在地		福岡市美術館長	
団体名		氏 名	
代表者		◎	
		(電話)	
次とおり利用を取り止めますので、福岡市美術館条例施行規則第10条の規定によりお届けします。			
許可年月日	年 月 日	許可番号	第 号
利用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで		
利用の取止めをする施設又は付属設備			
既納使用料	使用料	円	付属設備使用料
		円	
取止めの理由			

様式第4号

撮 影 等 許 可 申 請 書					
		年 月 日			
(宛先)福岡市美術館長					
申請者 住 所		福岡市美術館長			
氏 名		氏 名			
		(電話)			
次とおり美術作品等の撮影等をしたいので、許可を申請します。					
なお、撮影等に際しては、福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従います。					
撮影等の目的					
美術品等の名称	点 数	作 者 名			
撮影等の日時					
方 法	撮 影 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 熟 覧				
備 考					
手数料	撮 影	モノクローム	点	円	計
		カ ラ ー	点	円	
	模 写 ・ 模 造		点	円	円
	熟 覧		点	円	
(注) 太枠線内のみ記入してください。					

様式第5号

撮 影 等 許 可 書			
		第 号	
		年 月 日	
様			
		福岡市美術館長	
年 月 日申請の美術作品等の撮影等を許可します。			
撮影等の目的			
美術品等の名称	点 数	作 者 名	
撮影等の日時			
方 法	撮 影 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 熟 覧		
留 意 事 項	1 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。 2 撮影等に当たっては、美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。		

様式第6号

福岡市美術館観覧料減免申請書			
		年 月 日	
(宛先)福岡市教育委員会教育長			
申請者 所在地		福岡市美術館長	
団体名		氏 名	
代表者		◎	
		(電話)	
福岡市美術館条例施行規則第21条第2項の規定により次とおり福岡市美術館観覧料の減免を申請します。			
観覧目的			
観覧日時	年 月 日 (曜日) 時 分から		
観覧者数	小学生	学年	人
	中学生	学年	人
	その他		人
	引率者		人

様式第7号

福岡市美術館使用料減免申請書

年 月 日

(宛先)福岡市教育委員会教育長

申請者 所在地
団体名
代表者
(電話)

福岡市美術館条例施行規則第22条第2項の規定により次のとおり福岡市美術館使用料の減免を申請します。

事業名	
主催者名 (共催者名)	
後援者名	
利用施設	
利用期間	年 月 日(曜日) 時 分から 年 月 日(曜日) 時 分まで
本後市費が負担する経費の額	円
※本市が負担する経費の額 当該事業に要する経費の総額	円
備 考	

(注) ※印の欄は、経費を負担する市の担当課において記入を受けてください。

利用案内

開館時間

9：30～17：30（7～10月の金・土曜日は9：30～20：00）

※入館は閉館の30分前まで。

休館日

月曜日／年末年始

※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日

※年末年始休館期間は12月28日～1月4日

観覧料

【コレクション展・企画展】

一般200円（150円）、高大生150円（100円）、中学生以下無料

ただし、以下の証明書等保持者は提示で観覧無料。

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳（以上は介護者1人を含む）／特定医療費（指定難病）受給者証／特定疾患医療受給者証／先天性血液凝固因子障害等医療受給者証／小児慢性特定疾病医療受給者証／福岡市、北九州市、熊本市、鹿児島市在住の65歳以上の方は住所と生年月日がわかるもの（健康保険証、運転免許証等）

※（ ）内は20名様以上の団体料金。

※交通系ICカード等利用可。

【特別展】

特別展によって金額が異なる。

交通案内

【福岡市地下鉄】

空港線 大濠公園駅（福岡市美術館口）下車、
3・6番出口より徒歩10分

七隈線 六本松駅（科学館前）下車、
2番出口より徒歩10分

【西鉄バス】

系統番号13・140 福岡市美術館東口下車、徒歩3分

系統番号6・7・12・113・114・200～206・208

赤坂三丁目下車、徒歩5分

系統番号6-1 福岡城・NHK放送センター入口下車、

徒歩3分

【車】

福岡都市高速「西公園ランプ」から約5分

福岡都市高速「百道ランプ」から約10分

【福岡市美術館専用駐車場】

利用時間 午前9時～午後9時（開館日のみ）

使用料 普通車（26台）：1時間200円、

バス（5台）：1回2,000円／要事前予約



令和4年度

福岡市美術館活動の記録

編集・発行 福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

TEL: 092-714-6051

印刷 株式会社西日本新聞プロダクツ

発行年月日 2023年12月22日

©福岡市美術館 2023年